

【第1号議案】(報告事項)

平成27年度事業報告に関する件 (平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

I. 事業の状況

金子 明新会長のもと、前期の方針を踏襲し、「魅力ある学会」として、軽金属学会のプレゼンス向上、会員拡大を図り、さらに、日本の軽金属分野の更なる「技術革新」を目指して、研究開発活動の推進に中心的な役割を果たすとともに、その基盤となる「人材確保と人材育成」に取り組み、国際交流等を通じて「国際化への対応」を推進する種々取組を実施した。本年度も二次加工業界の多くを占める中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業 R&D 支援プログラム」として、各支部においては無料講習会・セミナー、研修会、支部企業奨励賞表彰などの行事を継続実施した。維持会員向けの WEB 相談室、軽金属セミナーDVD の無料貸出を行い、会員サービス向上による会員基盤増強を実施した。また、春秋講演大会においても、ユーザー企業参加促進策として企業交流会、日本アルミニウム協会賞受賞企業の招待講演等を実施した。研究開発活動は若手研究者を積極的に登用し、マグネシウムやチタンに関する研究部会も加えて、16 研究部会が活発な活動を展開した。学会誌「軽金属」では「アルミニウム技術史」連載、連載講座「入門 軽金属の生産技術～アルミニウムの上工程から下工程まで～」、「年間レビュー」、「私の一枚」、「維持会員紹介」、「学会便り」、「支部便り」などの論文・解説以外の記事充実を図り、会員、ユーザー企業に学会活動状況、会員企業紹介など情報発信を行った。人材育成については大学オープンキャンパスへの軽金属製品提供を通じて、中高生、教師、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。また、本学会の人材育成事業紹介を小・中・高等教育の技術科教育を扱う日本産業技術教育学会全国大会(愛媛大学)で実施した。国際交流事業は、2022 年の ICAA(International Conference on Aluminum Alloys)18 誘致準備、ALMA(Asian Light Metals Association) Forum 2016 & Meeting の京都開催準備を行った。また、富山大学主催の先端材料研究フォーラムの共催行事として、海外研究者 7 名を招いた第 11 回軽金属国際ワークショップを開催した。なお、公益目的支出計画は前年度 3 月 31 日に完了し、7 月に内閣府に実施完了確認申請を行い、11 月 17 日に確認書が発行された。

[1] 研究会、学術講演会等の開催(定款第 4 条第 1 項第 1 号)

1. 春秋講演大会の開催

1) 第128回春期大会

会期 : 平成27年5月16日、17日
会場 : 東北大学青葉山キャンパス
実行委員長 : 新家光雄(東北大学)
定時総会 : 平成27年5月16日
研究発表講演 : 平成27年5月16日、17日 160件発表
ポスターセッション : 平成27年5月16日 45件発表
表彰式 : 平成27年5月16日
懇親会 : 平成27年5月16日(ホテルメトロポリタン仙台)
見学会 : 平成27年5月15日 JR東日本新幹線総合車両センター、麒麟ビール仙台工場 26名参加
機器・カタログ展示 : 平成27年5月16日、17日 10社参加
企業交流会 : 平成27年5月16日、17日 13社参加

2) 第129回秋期大会

会期 : 平成27年11月21日、22日
会場 : 日本大学生産工学部津田沼キャンパス
実行委員長 : 加藤数良(日本大学)
研究発表講演 : 平成27年11月21日、22日 175件発表
ポスターセッション : 平成27年11月21日 43件発表
表彰式 : 平成27年11月21日
懇親会 : 平成27年11月21日(大学内学生食堂)
機器・カタログ展示 : 平成27年11月21日、22日 11社参加
企業交流会 : 平成27年11月21日、22日 10社参加
人材育成展示 : 平成27年11月21日、22日

2. シンポジウム、セミナー等の開催

	名 称	開催平成年月日	開催場所	参加者数
1	第 94 回シンポジウム「次世代自動車の車体軽量化における材料・加工技術の開発トレンド II」	27 年 6 月 5 日	早稲田大学西早稲田キャンパス	79 名
2	第 95 回シンポジウム「電子顕微鏡による材料研究 II」～ミクロ組織観察の現状～	27 年 7 月 3 日	早稲田大学西早稲田キャンパス	29 名

3	第 32 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－入門編(状態図と組織)」第 3 回	27 年 7 月 17 日	関西大学 千里山キャンパス 100 周年記念会館	34 名
4	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－中級編(時効析出)」第 1 回	27 年 7 月 21 日	早稲田大学西早稲田キャンパス	49 名
5	軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」	27 年 9 月 10、11 日	ヤマハリゾートつま恋	37 名
6	第 96 回シンポジウム「鉄道車両軽量化技術」	27 年 11 月 6 日	千葉工業大学津田沼キャンパス	48 名
7	第 97 回シンポジウム「アルミニウム溶解炉における複合酸化物の異常生成」研究部会報告	27 年 12 月 14 日	品川区立総合区民会館「きゅりあん」	72 名
8	第 32 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－入門編(状態図と組織)」第 4 回	28 年 2 月 19 日	名古屋大学東山キャンパス 環境総合館レクチャーホール	34 名
9	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織－中級編(時効析出)」第 2 回	28 年 3 月 8 日	早稲田大学西早稲田キャンパス	35 名

[2] 国内外における研究協力・連携の推進(定款第 4 条第 1 項第 2 号)

1. 国際交流

1) ICAA(International Conference on Aluminum Alloys)18

2022 年の日本誘致(富山開催)を計画し、ICAA15(2016 年、重慶)での立候補表明の準備を実施した。

2) ALMA (Asian Light Metals Association) Forum 2016 & Meeting

平成 28 年 8 月 6 日に京都開催(京都テルサ)を計画した。

3) 第 11 回軽金属国際ワークショップ

平成 27 年 12 月 9 日～10 日に、富山大学第 1 回先端材料研究フォーラムの共催行事として第 11 回軽金属国際ワークショップを開催した。以下の 7 件の講演を行った。

- ① 「先端アルミニウム材料の適用に関する研究の先端アルミニウム材料の適用研究の可能性」
Prof. Gary J. Shiflet, バージニア大学(USA), 富山大学客員教授
- ② 「6061 アルミニウム合金およびシリカポストシーリング上にモリブデン酸修飾したリン酸亜鉛」
Assoc. Prof. Torranin Chairuangstri, チェンマイ大学(タイ王国)
- ③ 「次世代航空機用軽量材料 TiAl 合金の高温酸化特性」
Prof. Kazimierz Przybylski, AGH 科学技術大学 (ポーランド)
- ④ 「中性子回折法による高濃度アルミ化合物の研究」
Dr. Wayne Hutchison, ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)
- ⑤ 「6000 系アルミニウム合金の熱安定性」
Dr. Calin D. Marioara, SINTEF (ノルウェー)
- ⑥ 「アモルファスあるいは準結晶で強化されたアルミニウム基複合材料」
Prof. Jan M. Dutkiewicz, 科学アカデミー 冶金・材料科学研究所(ポーランド)
- ⑦ 「摩擦攪拌接合された AA6061 アルミニウム合金 T6 材の析出評価」
Prof. Yong Zou, 山東大学(中国)

4) 台湾軽金属協会来日対応

平成 27 年 5 月 25 日に台湾軽金属協会会員 16 名が軽金属学会を表敬訪問した。引き続き、5 月 26 日、27 日にわたり、国内アルミニウム製造企業 3 社((株)UACJ 深谷製造所、(株)アーレスティ東松山工場、日本軽金属(株)蒲原製造所)の工場見学を実施した。

5) ICAA6(1998年、豊橋)、ICAA12(2010年、横浜)プロシーディングスのWEB公開

ICAAドイツ国際委員 John Banhart 氏から過去 ICAA のプロシーディングスの WEB 公開の要請があり、日本で開催した 2 回分の電子データの提供を申し出た。

2. 産学官の連携

経済産業省非鉄金属課長井上幹邦様に第 129 回秋期大会懇親会にご臨席、ご挨拶賜り、当学会役員との意見交換を行った。また、参加会を 2 回開催し、日産自動車(株)追浜工場の EV 車製造工程、軽金属押出開発(株)の大型押出材製造工程の見学を通じて、産学官の密接な連携のもとに、軽金属の将来に対する意見交換を行い、ユーザー側からの助言を得た。この他、経済産業省のまとめた『金属素材競争力強化プラン』の中の人材育成について、初・中・高等教育における金属素材産業の魅力伝承を支援する目的で、小・中・高等教育の技術科教育を扱う日本産業技術教育学会全国大会において、本学会の人材育成事業、軽金属製品の紹介を行った。

3. 日本アルミニウム協会との連携

日本アルミニウム協会の主催により開催された産学懇談会に出席し、情報交換を行った。日本アルミニウム協会の研究助成事業の約 30 件の研究の大部分を講演大会で成果発表していただいた。今後の新規アルミニウム需要拡大が期待される研究 3 件については会誌で解説として公開した。また、日本アルミニウム協会賞受賞企業 3 社を第 129 回秋期大会「企業交流会」に招き、受賞技術の講演、製品展示いただき、会員との交流を深めた。

4. 日本マグネシウム協会、日本チタン協会との連携

本年度より、マグネシウム、チタン関連の研究部会を立上げ、両協会に部会メンバーに参画いただき、研究連携を実施した。また、日本産業技術教育学会全国大会での本学会人材育成事業紹介にあたり、日本アルミニウム協会に加えて、両協会からパンフレット提供や代表的なマグネシウム製品、チタン製品貸出の協力を得て、人材育成事業

推進に関する情報交換を実施した。

5. 他学術団体、業界団体との連携

日本学術会議材料工学連絡委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、日本金属学会、日本鋳造工学会、日本鉄鋼協会、日本塑性加工学会、日本材料学会など、他学協会との研究発表、シンポジウムの共催、協賛、後援などの協力を積極的に行った。溶接学会の若手会員の会、日本鉄鋼協会の若手フォーラムと合同で若手研究者・技術者講演会「金属材料加工シンポジウム」を平成27年6月19日に実施した。また、これまで実施していなかった講演大会の協賛を第128回春期大会からの開始を決め、協賛学協会からの会員価格での参加を可能とし、交流促進を図ることとした。日本産業教育技術協会とはこれまで実施してきたエネルギー利用技術作品コンテストでの表彰に加えて、8月22日-23日に愛媛大学で開催された全国大会において、本学会の人材育成事業紹介、軽金属製品展示、技術科実験事例紹介などを実施した。

[3] 学会誌、学術図書等の刊行(定款第4条第1項第3号)

1. 会誌「軽金属」等の編集発行

本年度は、第65巻4-12号、第66巻1-3号までの12冊を、うち、第65巻5号は特集号「軽金属材料の塑性加工技術と数値シミュレーションの最前線」、第65巻11号は特集号「軽金属材料の成形シミュレーションの高精度化技術」、第66巻2号は特集号「アルミニウム中の水素の分析」として刊行した。掲載内容の分類は以下のとおりである。

区 分	編数	区 分	編数	区 分	編数
巻頭言	5	連載講座	6	支部編集特集	29
研究論文	39	新製品・新技術紹介	1	はぐくむ	11
技術報告	3	随想	8	研究部会紹介	0
解説	23	LMコラム	5	学会便り	15
研究ノート	0	研究室／研究所紹介	0	支部便り	20
LM レビュー	0	維持会員紹介	3	私の一枚	12
年間レビュー	7	国際会議便り	5		
最終講義	1	技術史	11	掲載総数	204

2. 研究部会報告書の発行

昨年終了した6研究部会のうち、残りの3部会の部会報告書を発行した。

No.	名 称	発行平成年月日
63	アルミニウム溶解炉における複合酸化物の異常生成研究部会報告書 「アルミニウム溶解炉における複合酸化物の異常生成－調査および再現試験－」	27年12月2日
64	アルミニウム圧延における生産性研究部会報告書 「アルミニウム板圧延における稼働率と生産性の向上」	27年10月31日
65	高機能押出加工技術研究部会報告書	28年3月31日

3. その他刊行物

名 称	発行平成年月日
第128回春期大会講演概要集	27年4月16日
第94回シンポジウム「次世代自動車の車体軽量化における材料・加工技術の開発トレンドⅡ」～軽金属材料の競合たちの現状と将来展望～	27年6月5日
第95回シンポジウム「電子顕微鏡による材料研究(Ⅱ)」～マイクロ組織観察の現状～	27年7月3日
第129回秋期大会講演概要集	27年10月21日
第96回シンポジウム「鉄道車両軽量化技術」	27年11月6日

[4] 研究及び調査の実施(定款第4条第1項第4号)

研究部会は、前年度より継続の3部会と新設の13部会の合計16部会が活発な研究事業を実施した。またWEB上に研究部会活動紹介を行い、部会活動の見える化を図った。春秋講演大会でのテーマセッションや報告会を実施した。さらに、本学会の研究開発ロードマップの更新を計画した。平成27年度の16研究部会の活動成果概要を下表に示す。

No.	部会名	課題	研究成果概要
1	成形性評価シミュレーション技術開発部会 【開催期間】 平成23年6月-平成28年3月末(1年延長)	アルミニウム合金の成形性評価に必要な基礎データの整備と充実を図る。	1年延長し、最終年度として4回(平成27年7月17日、12月4日、平成28年2月17日、3月8日)の研究部会を開催。 ①材料モデルとして二軸引張および二軸バルジ試験の適用により、シミュレーションの精度向上技術を確立した。さらに、不均質有限要素法や結晶塑性有限要素法(フェーズフィールド法)の適用を進め、より一層のシミュレーションの精度向上を目指し、これらの活用によるシミュレーションによる評価技術の有効性を確立した。 ②本研究部会を中心として、軽金属誌2015年11月号に特集号「軽金属

			<p>材料の成形シミュレーションの高精度化技術」として掲載した。</p> <p>③会誌掲載論文・解説と部会で検証した結果を部会報告書にまとめ、データベース化を図った。(部会報告書発行は H28 年度を予定)</p> <p>④実用化に向けた将来への課題抽出を行い、更なる高精度化に向けた基礎研究の推進、実モデル検証などを行う新部会発足を決定した。</p>
2	<p>加工と熱処理による優先方位制御研究部会</p> <p>【開催期間】 平成 24 年 4 月 - 平成 29 年 3 月末(1 年延長)</p>	<p>加工と熱処理による新しい集合組織制御技術の構築を目指して、実現可能な優先方位の組合せによる大幅な特性改善の可能性を見出すこと。</p>	<p>4 回(平成 27 年 6 月 8 日、10 月 8-9 日、11 月 30 日、平成 28 年 3 月 15 日)の研究部会を開催。</p> <p>本部会の各テーマで得られた成果や技術を活かして、塑性変形と再結晶を経て形成する集合組織を予測するとともに、最終的にそれを利用した特性予測を行うための一貫通貫の汎用シミュレーション技術を確立し、加工と熱処理による新しい集合組織制御技術の構築に役立てることを将来的な目標として、本部会の 1 年延長を決定した。</p> <p>検討した 5 つのテーマの進捗を以下に示す。</p> <p>①優先方位評価の厳密化 面心立方晶金属に加えて六方晶金属の優先方位厳密評価を検討中。</p> <p>②特性改善に有効な優先方位 集合組織から r 値と曲げ加工性の面内異方性予測が可能となった。</p> <p>③冷間および熱間加工による集合組織変化 モバイルワークステーション、コンパイラソフトを購入し、汎用の変形集合組織予測プログラム作成を開始した。</p> <p>④再結晶集合組織に及ぼす加工・熱処理条件の影響 将来的な再結晶集合組織形成モデルの構築を支援する実験データ収集を計画した。</p> <p>⑤新プロセスによる集合組織形成と材料特性 集合組織形成に及ぼす付加的せん断変形の影響を検討中。</p> <p>本研究部会を中心として、軽金属 2016 年 11 月特集号「結晶方位解析とその応用」を企画中である。</p>
3	<p>ミュオンスピン緩和スペクトル法の応用研究部会</p> <p>【開催期間】 平成 25 年 4 月 - 平成 29 年 3 月末</p>	<p>ミュオンスピン緩和の研究手法を応用することにより、6000 系アルミニウム合金中の原子空孔および Mg-Si-V クラスターの密度とその挙動、およびアルミニウム合金中での水素の挙動を解明する。</p>	<p>3 回(平成 27 年 7 月 2 日、10 月 16 日、平成 28 年 2 月 19 日)の研究部会を開催。</p> <p>RIKEN-RAL(Rutherford Appleton Laboratory)でのミュオン測定結果と磁化率、比熱測定との結果についての比較を行い、下記解釈を得た。</p> <p>①Al-Mg₂Si 合金では、時効条件を変化させてミュオンのホッピング率を測定した結果から、ミュオンは 100K より低温では固溶 Mg が作る浅いポテンシャル、200K 付近ではクラスター、室温辺りの比較的高い温度では原子空孔に捕獲されているかがわかる。200K 付近のミュオン捕獲率が 100℃で人工時効した試料で大きいことから、この条件でクラスター密度が高いと考える。</p> <p>②時効条件による Al-Mg₂Si 合金のミュオンスピン緩和率の時間変化は、硬さや電気抵抗の変化に対応した。加えて、Al-Mg-Si 合金における磁化の時間変化測定を行った結果、290℃より高温では時間とともに大きくなる一方で、280℃より低温では磁化の変化がほとんど無くなり、原子空孔が動かないものが多くなるのが影響していると考えられる。</p> <p>③以上の結果は、従来、問題視されてきた夏と冬での Al-Mg-Si 合金のクラスター形成挙動が異なることを示していると考えられる。</p> <p>今年度成果は学会 HP-研究部会に掲載した。</p>
4	<p>押出組織制御予測技術研究部会</p> <p>【開催期間】 平成 27 年 4 月 - 平成 31 年 3 月末</p>	<p>日本の押出技術(製品・生産技術)の高度化と世界との差別化を目的に、組織予測を可能にする組織制御技術の研究し、パラッキ制御、難押出合金の押出条件の最適化を可能にし、製品の差別化に貢献する技術確立を行なう。</p>	<p>3 回(平成 27 年 6 月 12 日、9 月 25 日、平成 28 年 1 月 14 日)の研究部会を開催。</p> <p>①研究動向調査では、アルミニウム押出組織を体系的に調べられたものがなく、特に 7000 系合金は公表されたものが少なく、鉄鋼材料など他の金属の研究動向も調査した。</p> <p>②各大学で実施できる実験などを確認するとともに、参加企業の研究用押出機の仕様調査も行って、産学共同で研究計画の立案を進めた。</p> <p>③研究計画の作成が進み、学側での予備実験がなされた。製品表面性状および組織の観察は難しく、組織の予測を行う前に、まず解明できていないコンテナやダイスとの摩擦状態の調査を行うこととなった。</p>
5	<p>アルミニウム板圧延における表面欠陥研究部会</p>	<p>アルミニウム板製品の表面欠陥についての分類から始まり、発生メカニズムの整理、防止策の検討や事例</p>	<p>4 回(平成 27 年 7 月 24 日、9 月 25 日、12 月 11 日、平成 28 年 3 月 4 日)の研究部会を開催。</p> <p>①表面欠陥例を持ち寄りその形態確認を行った。表面欠陥の検査・確認方法や発生原因推定についても意見交換を行った。</p> <p>②表面欠陥の呼称整理・分類を実施した。</p>

	【開催期間】 平成27年4月- 平成31年3月末	紹介、また、表面欠陥の検出技術についても議論検討しレベルの向上を図る。最終的には事例集を中心に報告書を作成する。	
6	新エネルギー向け表面処理研究部会 【開催期間】 平成27年4月- 平成31年3月末	新エネルギー分野(太陽、風力、地熱、海洋、シェールガス、メタンハイドレート関連等)向けアルミニウム部材の表面処理について、耐食性、耐候性、耐摩耗性、等の比較調査を行ない、新機能付与の可能性も検討する。環境に配慮した非クロム系処理や自己修復機能を有する塗膜等の最新技術も検討する。	3回(平成27年7月10日、10月30日、平成28年1月27日)の研究部会と1回(平成27年8月23-24日)の見学会(大分県湯布院フォレストエナジー(株)の地熱発電所)を開催。 ①新エネルギー分野全般の国内外動向を調査し、市場性やアルミ化メリットを考慮し、地熱・海洋温度差発電の熱交換器や太陽熱の反射板を対象分野としたが、別分野を継続調査する。 ②発電設備を見学し、熱交換器を中心に現状把握を実施した。スケール対策として薬注した水質(pH5.5)環境で耐久性のある材質と表面処理の提案がアルミ化に繋がる可能性がある。 ③表面処理に関する課題としてバイオエタノールに対する防食、遮熱表面処理の可能性が考えられた。
7	水素と力学特性研究部会 【開催期間】 平成27年4月- 平成31年3月末	原子状、分子状の水素が5000系、7000系アルミニウム合金の力学特性に及ぼす影響、およびこれらを制御することによる力学的特性改善法などを対象とする。情報交換を通じて力学的特性改善の実現を追求する。	3回(平成27年6月8日、10月14日、平成28年3月15日)の研究部会を開催。 ①内部講師(4件)および外部講師(2件)による基調講演を通し、水素と力学特性に関する基礎および最新の研究成果の理解を進めている。また、これにより各研究項目の方向性を議論している。また、実験施設の見学(大学1件)も研究会開催に合わせて実施した。 ②水素脆化が問題となり、かつ実用化された時に社会的波及効果の大きな10%Mg-5083合金および10%Zn-7075合金を共通試料と定め試作した。試料の水素量は高低2水準試作の予定であったが、高低の試料であまり差がないため、各自水素チャージで対応することとした。 ③共通試料を用いた研究の加速のため、岩手大北條委員を中心として、九大、上智大Grが大型放射光施設SPring-8で水素脆化挙動の4D可視化実験を行った。
8	アルミニウムの凝固・微細化・清浄化研究部会 【開催期間】 平成27年4月- 平成31年3月末	アルミニウムおよびアルミニウム合金の凝固組織の等軸晶化・微細化に関する改めでの検討を通じて、微細化に寄与せずに介在物化するTiB ₂ のメカニズム解明を行うとともに、介在物除去研究も行う事で、より高品質な製品製造に寄与する研究を行う。	4回(平成27年5月8日、8月5日、11月2日、平成28年1月15日)の研究部会を開催。 ①フラックスの計算状態図に関して、KCl-KFの熱力学的解析を行った。 ②TiB ₂ の凝集モデルを構築するための予備調査を行った。 ③部会として実行可能な産学協同試験の実施が決定され、微細化能の試験方法(The Aluminum AssociationのStandard Test Procedure for Aluminum Alloy Grain Refiners 2012(通称AA-TP1、2012年版))に準拠した鋳型兼柄杓や微細化剤ロッドを購入した。 ④凝固プロセスの工場見学会を実施することになった。
9	異種材料接合・界面研究部会 【開催期間】 平成27年4月- 平成31年3月末	異種金属、異種材料の新しい接合プロセス、接合材の組織と特性、接合メカニズムの基礎と応用を検討し、評価技術の確立ならびにデータベース化を推進する。	1回(平成27年10月14日)の研究部会を開催。 ①多様な材料の組合せとそれに適用されている接合技術の現状について発表形式で意見交換し、問題認識の共通化を図った。 ②共同実施する課題について、対象を自動車とし、ボディパネルや熱交換器などの部品について、異種金属・異種材料の組合せと接合法、評価法を議論したが、継続して議論する必要がある。
10	チタンの準安定相・析出相研究部会 【開催期間】 平成27年4月- 平成31年3月末	チタン中の準安定相・析出相が形成される機構解明、微細組織および諸特性との関係に関する実験的研究、準安定相・析出相形成予測に関する	3回(平成27年8月10日、11月17日、平成28年2月25日)の研究部会を開催。 ①部会内の共通認識の深化と研究の現状把握を目的に、各部員から研究報告を行った。 ②部会で取り扱う合金系をTi-V-O系およびTi-Nb-O系とした。 ③部会内のグループ分けを以下の通り決定した。 ・B型チタン合金G：新家、池田、上田、仲井

		る計算材料学的研究を行い、準安定相・析出相制御を通してのチタンの高機能化と低コスト化の可能性を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・α型および$\alpha+\beta$型チタン合金（β型以外）G：御手洗、小林、成島 ・計算G：上杉、佐原 <p>④耐熱材料への展開を視野に、化学的特性への展開も検討することとした。</p>
11	多機能性材料研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末	アルミニウムの特徴を活かした多機能材料としての可能性を拡大する。ポーラシ化・複合化による課題解決方法、目標とする気孔形態、第二相形態をもつポーラシ材料、複合材料の製造プロセスを検討する。	<p>4回(平成27年5月17日、9月7日、11月21日、平成28年1月25日)の研究部会を開催。</p> <p>①企業メンバーのニーズ紹介と大学メンバーのシーズ紹介の報告会を継続的に行い、多機能性材料として進むべき方向性およびその対応方法についての議論を行い、熱・剛性・衝撃吸収など共通で検討をすべき課題を見出した。他にも電池用材料・親水処理など様々なニーズを抽出した。今後は、例えば高効率熱輸送構造や断熱構造の最適化・実現方法など、具体的な課題解決方法についての議論を行う必要がある。</p> <p>②大学研究事例では、研究リソースの紹介(研究室見学)、様々な製造プロセス、3Dプリンタ技術、衝撃吸収材料の展開先、新しいシミュレーション技術などについての情報交換ができた。</p> <p>③課題解決の方法として、ポーラシ材料の気孔形態制御、複合材料の第2相形態制御の検討を行うことにしているが、外部から専門家を呼び、セミナーを開催することを検討することとした。</p>
12	超音波鋳造研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末	凝固組織微細化効果のある超音波鋳造に関する創造的な研究の発展と早期実用化を図る。世界の研究動向と技術展開に関する知見を得て、装置構成、超音波ホーン要求仕様、超音波処理条件の最適化に向けた現象解明、各種合金に対する超音波効果、凝固組織変化に対する超音波効果の機構を検討する。	<p>3回(平成27年5月19日、10月9日、平成28年2月2日)の研究部会を開催。</p> <p>①超音波鋳造において超音波照射効果・現象に関する理解を深めるとともに、世界の研究動向と技術展開についての調査・情報交換を行った。</p> <p>②超音波照射効果を確実に確認するため、合金を準備し、超音波効果について実験的な検討を行うこととした。</p>
13	異種金属接合部の腐食挙動予測研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末	車両・建材等の構造部材の鋼/アルミニウム、亜鉛/アルミニウムのような異種金属接合部の腐食挙動を予測する。	<p>3回(平成27年9月11日、11月30日、平成28年2月22日)の研究部会を開催。</p> <p>①アルミニウム材/鋼材からなる異種金属接合部の腐食研究について成果報告を行い、現状の課題について議論した。各委員の役割分担、研究の進め方など実施計画を検討した。</p> <p>②アルミニウム材側の腐食挙動の複雑性からシミュレーションによる腐食評価、腐食予測が極めて困難なため、腐食現象を単純化して、シンプルな腐食系のシミュレーションによる腐食評価を進めることで、課題の解決を試みることにした。</p> <p>③アルミニウム材の腐食挙動(浸漬条件、大気腐食環境)に関する電気化学的パラメータを収集しデータベースを整備することとした。</p>
14	汎用型高性能マグネシウム合金研究部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末	資源偏在性の少ない元素により構成される汎用マグネシウム合金を対象として、高強度・高延性、生産性、信頼性(腐食・接合性・難燃性等)を加味した合金設計指針の検討を行う。発火特性・室温成形性を改善するプロセス技術検討、計算科学を利用した合金設計法、プロセス予測法を検	<p>4回(平成27年9月14日、11月30日、平成28年1月25日、3月17日)の研究部会を開催。</p> <p>①展伸材の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マグネシウム合金板材のプレス成形前後の組織変化に関する文献調査を行った。 ・文献調査の結果を受け、各種マグネシウム合金の室温～温間曲げ特性(および成形試験前後の組織変化)を調査することになった。現在、参画企業(素材メーカー)が試験用の圧延材を作製中である。また、順次曲げ試験を実施する予定である。 <p>②鋳造材の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性について議論を行った。そこでは、展伸材のリサイクル性(再溶解・圧延を行った際に同様の組織が得られるかの調査、リサイクル材の耐食性の調査等)を検討する方法について議論を行った。

		討する。	
15	冷間／熱間加工工程における組織形成予測部会 【開催期間】平成27年4月-平成31年3月末	前部会で活用した同志社大学仲町先生のコードを更に発展させ、我が国独自のアルミ製造技術に貢献できる材料組織形成シミュレーションの構築を目指す。なお、製造現場に即した課題抽出も行い、製造プロセスへの適用も検討する。	2回(平成27年6月30日、12月2日)の研究部会を開催。 ①冷間圧延組織予測システムについて、前部会で得られたプログラムの更新は岐阜大学が担当することとした。 ②合金熱間変形における析出挙動調査の内容を決定した。 ・第一ステップとして析出有無に及ぼすひずみ、ひずみ速度および温度の影響をマッピングする。 ・Al-1%Mn合金は地金ベースを高純(4N)および1050レベルの2種とする。比較として4N材での挙動も調査する。 ・サンプル作成はUACJおよび日軽金で検討する。 ・さらに下部組織の熱的安定性や熱間加工時のC曲線調査を目的とし、平面ひずみ圧縮試験、導電率測定および熱分析を行うこととした。 ③平面ひずみ圧縮試験は終了し、示差走査熱量測定(DSC)を追加、さらに析出物同定・分布状態をXRDおよびTEM観察にて行い、熱処理後組織観察(偏光組織)を実施中。
16	アルミニウムのトライボロジー研究部会 【開催期間】平成27年10月-平成31年3月末	アルミニウム圧延でのロールコーティング生成におよぼす影響因子の解明を目的に、摩擦摩耗試験を用いた工具とAlの凝着現象研究や、純Al系材質とAl-Mg合金系材質でのロールコーティングの生成挙動の比較を行う。	①ロールコーティングを工具と材料の凝着現象と捉え、基礎的な研究を進めようとし、大学の先生と接触したが、当初考えていた以上に研究費用が発生する可能性がある。 ②アルミニウム凝着の起点を調査する研究手法を選定し、実験計画を作成した。

[5] 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

それぞれ選考委員会において選考を行い、理事会での承認を得て、(1)および(7)1を平成27年5月開催の第128回春期大会にて、(2)～(5)および(7)2を平成27年11月開催の第129回秋期大会にて表彰を行った。(6)については、平成28年2月末に表彰楯を各大学、高等専門学校へ送付し、卒業・修了など相応しい時期に表彰を託した。

(1)平成27年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞表彰

前年度の軽金属学会賞・功労賞・功績賞選考委員会で選考され、理事会で承認された下記2名を表彰した。

- | | | |
|----------------|------------|---------|
| 1)第18回軽金属学会賞 | (株)UACJ 顧問 | 吉田 英雄 君 |
| 2)第17回軽金属学会功労賞 | | 該当なし |
| 3)第13回軽金属功績賞 | 大阪府立大学 教授 | 井上 博史 君 |

(2)平成27年度軽金属論文賞・論文新人賞

佐藤英一推薦委員長のもとで論文賞対象論文50編の内12編、新人賞対象論文10編の内5編の論文を推薦し、土田孝之選考委員長のもとで3編(12名)の論文賞、4名の新人賞を選考した。

1)論文賞

- ①「6111アルミニウム合金のリジリング発生に及ぼす加工熱処理の影響とCube方位粒形成過程」
第64巻8号(2014)353-360掲載
九州大学(現 北海道大学) 池田 賢一 君
九州大学(現 神鋼ファブテック(株)) 宮田 幸昌 君
九州大学(現 トヨタ自動車(株)) 吉原 隆浩 君
九州大学 中島 英治 君
東京工業大学(現 名古屋大学) 高田 尚記 君
- ②「放射光三次元計測した局所ひずみに基づくアルミニウム合金の変形集合組織形成シミュレーション」
第64巻11号(2014)557-563掲載
豊橋技術科学大学 河野 亜耶 君、小林 正和 君、三浦 博己 君
九州大学 戸田 裕之 君
- ③「Al-Fe-Mn合金箔の硬化現象に及ぼす低温熱処理の影響」 第65巻4号(2015)131-136掲載
三菱アルミニウム(株) 鈴木 貴史 君、中西 茂紀 君、崔 祺 君

2)論文新人賞

- ①「放射光三次元計測した局所ひずみに基づくアルミニウム合金の変形集合組織形成シミュレーション」
第64巻11号(2014)557-563掲載
豊橋技術科学大学大学院 河野 亜耶 君
- ②「タンデム式縦型高速双ロールキャスト法で作製した4045/3003/4045アルミニウム合金クラッド材の組織と機械

的性質」

第 64 巻 9 号(2014) 399-406 掲載

東京工業大学大学院(現 リョービ(株))

中村 亮司 君

③ 「均質化法に基づく結晶塑性有限要素法による 5000 系アルミニウム合金板の二軸引張変形解析と実験検証」

第 65 巻 5 号(2015)196-203 掲載

東京農工大学大学院(現 古河機械金属(株))

橋本 圭祐 君

④ 「Precipitation Sequence in the Mg-Gd-Y System Investigated by HRTEM and HAADF-STEM」

Materials Transactions, Vol.55, No.7(2014)1051-1057 掲載

富山大学大学院(現 豊田鉄工(株))

松岡 祐輝 君

(3)第 50 回小山田記念賞

本保元次郎選考委員長のもと、応募技術 2 件について検討の結果、当該技術 1 件を選考した。

「中性子吸収材 MAXUS®(マクス) (炭化ホウ素含有アルミニウム基複合材料)の開発」

日軽新潟(株)

近藤 琢年 君、Clausse Xavier 君

日軽金アクト(株)

山崎 俊明 君、本望 秀樹 君

東洋アルミニウム(株)

田中 昭衛 君

日本軽金属(株)

上村 雄介 君、長澤 大介 君

(4)第 38 回高橋記念賞

高橋英徳選考委員長のもと、各支部からの推薦 5 件について選考委員による書面審査の結果、4 名を選考した。

(株) UACJ

篠崎 滝義 君

トヨタ自動車(株)

中田 亮一 君

(株)デンソー

山田 勝 君

マツダ(株)

正木 久 君

(5)軽金属奨励賞・躍進賞・女性未来賞

廣澤渉一選考委員長のもと、3 つの賞について審議し、躍進賞は応募 4 名の候補者のうち 3 名を、奨励賞は 3 名の候補者のうち 3 名を、女性未来賞は 2 名の候補者のうち 1 名を選考した。

1)第 14 回軽金属躍進賞

(株)UACJ

浅野 峰生 君

千葉大学

糸井 貴臣 君

(株)豊田中央研究所

大石敬一郎 君

2)第 13 回軽金属奨励賞

富山大学

李 昇原 君

防衛大学校

山田 浩之 君

(株) UACJ

山本 裕介 君

3)第 7 回軽金属女性未来賞

YKK (株)

水林 舞 君

(6)平成 27 年度軽金属希望の星賞

各支部からの一次推薦 33 名について、総務委員会による二次選考の結果、33 名全員を選考した。

所 属	氏 名	所 属	氏 名
北海道大学大学院	高橋 晃一 君	富山大学大学院	河合 晃弘 君
東北大学大学院	原 健治 君	名古屋大学大学院	小川 祐生 君
東北大学大学院	鈴木 優子 君	名古屋大学大学院	細川 知希 君
東京工業大学大学院	相澤 祐輔 君	名古屋工業大学大学院	濱田 貴行 君
茨城大学大学院	岩本 雄磨 君	豊橋技術科学大学大学院	河野 亜耶 君
茨城大学大学院	比佐 遼太 君	大阪大学大学院	岡本 拓也 君
茨城大学大学院	中野 貴史 君	大阪大学大学院	多田 晃基 君
群馬大学大学院	中野ゆき子 君	大阪府立大学大学院	和田 光司 君
群馬大学大学院	赤池 勇樹 君	京都大学大学院	宮澤 直己 君
首都大学東京大学院	北園 直樹 君	神戸大学大学院	長谷 貴之 君
芝浦工業大学大学院	神山 直澄 君	香川高等専門学校専攻科	川崎健太郎 君
工学院大学大学院	栗原 綾香 君	広島大学大学院	山川 大貴 君
東京農工大学大学院	森 崇裕 君	九州大学大学院	西尾 理恵 君
早稲田大学大学院	齊藤 瑞樹 君	九州大学大学院	増田 高大 君
日本大学大学院	寺井 克 君	九州大学大学院	佐々木勝郎 君
日本大学大学院	萩原 正敬 君	熊本大学大学院	松本 翼 君
千葉工業大学大学院	新藤 英毅 君		

(7)優秀ポスター発表賞

本賞は春秋大会で行われるポスターセッションで発表した優秀者に贈る賞で、今年度は以下の通り春期 10 名、秋期 9 名を表彰した。

1)第 128 回春期大会

- | | | |
|--|-----------|---------|
| ①Mg-Ca 合金の転位すべりおよび粒界強化効果に及ぼす第三元素の影響 | 神戸大学大学院 | 長谷 貴之 君 |
| ②工業用純アルミニウムの各種高温変形挙動を表す構成方程式の導出 | 横浜国立大学大学院 | 齋田真之介 君 |
| ③機能性 Ti 系合金細線の晶析出物と回転曲げ疲労特性 | 東北大学大学院 | 原 健治 君 |
| ④摩擦攪拌接合を施した Ti-6 Al-4 V 合金におけるマイクロ組織と引張特性 | 東北大学大学院 | 石田 悠 君 |
| ⑤Mg-Y 希薄合金の一軸および二軸引張変形による集合組織変化 | 東北大学大学院 | 鈴木 哲 君 |
| ⑥スリット入りポーラス Al コア充填パイプの圧縮変形挙動観察 | 群馬大学大学院 | 中野ゆき子 君 |
| ⑦湿潤大気環境中での Mg97Zn1Y2 合金における水素脆化き裂の発生 | 茨城大学大学院 | 比佐 遼太 君 |
| ⑧2000 系および 7000 系アルミニウム合金の水素挙動に及ぼす再結晶抑制元素の影響 | 茨城大学大学院 | 中野 貴史 君 |
| ⑨Mg-Zn-Y 系 18R-LPSO 単結晶の曲げ変形とキンク帯形成 | 熊本大学大学院 | 松本 翼 君 |
| ⑩半溶融状態で作製した A2024 プリカーサの発泡挙動の透過 X 線 in-situ 観察 | 早稲田大学大学院 | 齊藤 瑞樹 君 |

2)第 129 回秋期大会

- | | | |
|--|-------------|---------|
| ①Al-7%Si 鋳造合金のマイクロ組織と機械的性質 | 豊橋技術科学大学大学院 | 古田 将吾 君 |
| ②A6061-T6 アルミニウム合金の引張特性に及ぼす水素の影響 | 上智大学大学院 | 川島 健 君 |
| ③超微細粒アルミニウムの極低応力域における低温クリープ機構 | 首都大学東京大学院 | 比金 健太 君 |
| ④強ひずみ圧延加工による Al-Mg 合金の組織変化 | 神戸大学大学院 | 二宮 友樹 君 |
| ⑤難燃性マグネシウム合金 AZX611 の力学特性 | 香川高等専門学校専攻科 | 齊藤 楽 君 |
| ⑥鋳造用マグネシウム合金の機械的特性におよぼす時効処理前のプレス温度の影響 | 首都大学東京大学院 | 山口凜太郎 君 |
| ⑦Al/Fe 爆発圧接界面に生成する中間層の組成と組織 | 東京工業大学大学院 | 相澤 祐輔 君 |
| ⑧ARB 加工した工業用純アルミニウムの加工硬化指数、ひずみ速度感受性指数と延性との関係 | 横浜国立大学大学院 | 藤井 俊樹 君 |
| ⑨Al-高濃度 Mg 合金の等温時効における析出過程と析出粒子の形態および構造 | 横浜国立大学大学院 | 八子 卓矢 君 |

(8)平成 28 年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

金子 明選考委員長のもと、3つの賞について審議の結果、学会賞は3名の候補者のうち1名を、功労賞は3名の候補者全員を、功績賞は3名の候補者全員をそれぞれ下記のとおり選考した。表彰は平成28年5月開催の第130回春期大会にて行われる。

- | | | |
|------------------|---|--|
| 1)第 19 回軽金属学会賞 | 東京工業大学名誉教授 | 里 達雄 君 |
| 2)第 18 回軽金属学会功労賞 | (株)UACJ 技術部主査
北陸アルミニウム(株) ハウスウェア事業本部キャスト工場長 | 大瀧 光弘 君
中嶋 博 君 |
| 3)第 14 回軽金属功績賞 | 日本大学工学部教授
東北大学大学院教授
富山大学大学院教授
名古屋工業大学大学院教授 | 藤原 雅美 君
コマロフ セルゲイ 君
才川 清二 君
渡辺 義見 君 |

[6] その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第 4 条 1 項第 6 号)

1. 人材育成

各支部において、講演会・ポスター発表など、若手人材育成に関わる事業を実施した。

2. 若手の会、女性会員の会

(1)若手の会

第28回会合：第128回春期大会第2日目(5月17日)に実施。参加者37名。話題提供と質疑応答。
 第8回若手育成のための合同会合：第128回春期大会前日に実施。参加者16名。
 若手研究者・技術者講演会、金属材料加工シンポジウム：6月19日に高輪和彊館にて開催。溶接学会・若手会員の会、日本鉄鋼協会・創形創質工学会若手フォーラムとの合同開催。参加者42名。
 第29回会合：第129回秋期大会第2日目(11月22日)に実施。参加者38名。話題提供と質疑応答。
 第9回若手育成のための合同会合：第129回秋期大会前日に実施。参加者9名。

(2)女性会員の会

第18回会合：第128回春期大会第1日目(5月16日)に実施。参加者27名(女性25名、男性応援2名)。
 東北大学・工学系女性研究者・育成支援推進室(ALicE)との共催。
 第9回託児室設置：第128回春期大会中に実施。利用者なし。
 第19回会合：第129回秋期大会第1日目(11月21日)に実施。参加者23名(女性19名、男性応援4名)
 第10回託児室設置：第129回秋期大会中に実施。利用者1名。

3. 中堅企業R&D支援

二次加工業界の多くを占める中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援プログラム」の一環として、無料講演会、イブニングセミナー、相談会、研修会、出前講座などの行事を各支部で実施した。東海、関西支部では優れた技術開発を実施した維持会員企業を表彰する支部企業奨励賞授与を行った。本部では軽金属セミナーを録画したDVDの無料貸出を実施し、会員サービス向上による会員基盤増強を図った。また、春秋講演大会においては、ユーザー企業参加促進策として企業交流会を実施し、日本アルミニウム協会賞受賞企業の講演発表、開発製品展示を行い、技術交流、人材交流の場を提供した。東北大学で開催された春期大会では東北地区企業5社が企業交流会に参加し交流が行われた。

4. 支部活動

(1) 北海道支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会、支部評議員会(1回) 2.講演会等 ①アルミ製品製造の高度化技術講演会(苫小牧) ②支部講演大会(千歳アルカディア・プラザ) 平成27年4月24日開催 ③招待講演 1-2件 3.人材育成 ①若手研究者発表会 4.表彰関係 ①優秀発表賞 ②軽金属希望の星賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①企業訪問 ②無料講習会(内容は協議中) ③学会パンフレット配付	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①9月2日開催 2.講演会等 ①3回実施 ②支部講演大会 平成27年4月24日開催 ③招待講演 ①と併せて実施 3.人材育成 ①平成27年11月12日開催 4.表彰関係 ①表彰なし。 ②推薦なし。 5.維持会員加入勧誘活動 ①3社を訪問、1社加入 ②未実施 ③道総研工業試験場年次報告会「技術移転フォーラムー工業試験場成果発表会」(平成27年5月18日)にて配付
特記事項) 2.①アルミ製品製造の高度化技術講演会 ・技術研修会「ダイカスト金型の溶接補修実技研修」 平成27年11月4-5日 外部講師を招き、座学と溶接実技指導を実施した。 ・「アルミニウム合金の溶解・凝固特性、熱処理特性の理解と活用」 平成27年12月10日 外部講師を招き、技術講演会および企業個別の現場指導会を実施した。 ・「品質管理 基礎を学ぶ実践講座」 平成28年2月12日 外部講師を招き、座学と体験演習による指導を実施した。 その他 ①アルミ製品製造の高度化技術講演会は、「北海道アルミニウム利用技術研究会」と共同開催 ②支部講演大会は、日本鋳造工学会北海道支部と合同開催	

(2)東北支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会(2回) 2.講演会等 ①主催講演会(2回)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 2回開催 第1回平成27年11月18日 第2回平成28年3月11日 2.講演会等 ①1回開催(平成28年3月11日)

<p>②共催行事(3回)</p> <p>3.人材育成</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①高橋記念賞推薦</p> <p>②軽金属希望の星賞一次選考、推薦</p> <p>③軽金属希望の星東北支部賞支部選考、表彰</p> <p>④学会賞、功労賞、功績賞推薦</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>公設試の活用</p> <p>訪問活動継続</p>	<p>②3回開催</p> <p>第1回:平成27年8月25日(東北大学工学部)</p> <p>第2回:平成27年9月7日(東北大学金属材料研究所)</p> <p>第3回:平成28年1月29日(弘前大学理工学部)</p> <p>3.人材育成</p> <p>平成27年9月7~8日の共催講演会にて延べ50名の若手研究者および学生を聴講させた。</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①支部推薦無し</p> <p>②2名推薦し、2名受賞</p> <p>③推薦なし</p> <p>④3賞推薦し、功労賞、功績賞受賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>イブニングセミナー開催(平成28年3月11日)</p>																		
<p>特記事項)</p> <p>2-①、5 第1回支部講演会およびイブニングセミナー</p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td>「金属積層造形体の特性に影響を与える諸因子」</td> <td>東北大学</td> <td>野村直之</td> </tr> <tr> <td>「超音波接合を利用した金属積層造形法」</td> <td>東北大学</td> <td>藤井啓道</td> </tr> <tr> <td>「アルミニウム系粉末を用いたレーザ積層造形技術の開発」</td> <td>大阪府立産技研</td> <td>木村貴広</td> </tr> <tr> <td>「積層工法を用いたモノづくり(金属積層法、砂積層法)」</td> <td>(株)コイワイ</td> <td>安達 充</td> </tr> </table> <p>2-②第1回共催行事:講演会</p> <p>“Large Scale Manufacturing of Nanostructures: examples Zentallium® (super-light-weight) and FuturBeton (super concrete / public bridge Rosenthal)”</p> <p>講師:Dr. Prof. Dr. Henning Zoz, President & CEO of Zoz Group</p> <p>2-②第2回共催行事:東北大学金属系材料研究所共同研究ワークショップ</p> <p>「金属系バイオマテリアル研究の新たな現状と将来展望」 講師:19名</p> <p>2-②第3回共催行事:講演会</p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td>「高耐熱ステンレス鋼の開発」</td> <td>JFE スチール(株)</td> <td>太田裕樹</td> </tr> <tr> <td>「チタン・チタン合金の摩擦攪拌接合」</td> <td>東北大学</td> <td>佐藤 裕</td> </tr> </table> <p>3 上記2-②第2回共催行事において、若手支援助成金を申請。</p>		「金属積層造形体の特性に影響を与える諸因子」	東北大学	野村直之	「超音波接合を利用した金属積層造形法」	東北大学	藤井啓道	「アルミニウム系粉末を用いたレーザ積層造形技術の開発」	大阪府立産技研	木村貴広	「積層工法を用いたモノづくり(金属積層法、砂積層法)」	(株)コイワイ	安達 充	「高耐熱ステンレス鋼の開発」	JFE スチール(株)	太田裕樹	「チタン・チタン合金の摩擦攪拌接合」	東北大学	佐藤 裕
「金属積層造形体の特性に影響を与える諸因子」	東北大学	野村直之																	
「超音波接合を利用した金属積層造形法」	東北大学	藤井啓道																	
「アルミニウム系粉末を用いたレーザ積層造形技術の開発」	大阪府立産技研	木村貴広																	
「積層工法を用いたモノづくり(金属積層法、砂積層法)」	(株)コイワイ	安達 充																	
「高耐熱ステンレス鋼の開発」	JFE スチール(株)	太田裕樹																	
「チタン・チタン合金の摩擦攪拌接合」	東北大学	佐藤 裕																	

(3)関東支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <p>支部運営委員会(4回)</p> <p>2.講演会等</p> <p>①第129回秋期大会(日大生産工)の実行援助</p> <p>②工場見学会(1回)</p> <p>3.人材育成</p> <p>①若手研究者講演発表会(若手育成研修会)</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①高橋記念賞推薦</p> <p>②軽金属功労賞推薦</p> <p>③軽金属希望の星賞一次選考、推薦</p> <p>④支部企業奨励賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>セミナーや訪問活動を継続</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <p>①第1回運営委員会 平成27年5月28日</p> <p>場所:(株)神戸製鋼所東京本社</p> <p>②第2回運営委員会 平成27年8月24日</p> <p>場所:(株)UACJ 本社</p> <p>③第3回運営委員会 平成27年12月16日</p> <p>場所:(株)神戸製鋼所東京本社</p> <p>④第4回運営委員会 平成28年3月17日</p> <p>場所:(株)神戸製鋼所東京本社</p> <p>2.講演会等</p> <p>①実行委員会に参画</p> <p>②工場見学会 平成27年12月3日</p> <p>場所:(株)UACJ 深谷製造所、日立金属(株)熊谷工場</p> <p>参加者:35名</p> <p>3.人材育成</p> <p>①若手研究者育成研修会</p> <p>日時:平成27年8月30日-31日</p> <p>場所:(株)神戸製鋼所鬼怒川保養所・真岡製造所</p> <p>参加者:43名</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①2名推薦し、1名受賞。</p> <p>②1名推薦し、1名受賞。</p> <p>③14名推薦し、14名受賞。</p> <p>④推薦なし。</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p>

<p>特記事項)</p> <p>3.①平成 27 年度(第 3 回)若手研究者育成研修会 参加者:若手研究者 30 名(企業 5 名, 学生 25 名), 関東支部運営委員 13 名(企業 5 名, 学側 8 名) 若手研究者講演発表件数:25 件 特別講演 1 件:茂泉健「ディーゼルエンジン用高耐久性アルミシリンダヘッドの開発」 いすゞ自動車(株)</p>

(4)北陸支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①定例幹事会(2 回)</p> <p>2.講演会等 ①春期大会</p> <p>②秋期講演会</p> <p>3.人材育成 ①幹事研修会</p> <p>②若手育成支援事業</p> <p>4.表彰関係 ①軽金属女性未来賞 ②軽金属希望の星賞 ③軽金属学会功労賞・功績賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①第 1 回 平成 27 年 4 月 28 日 第 2 回 平成 27 年 9 月 14 日 場所: 富山大学工学部 大会議室</p> <p>2.講演会等 ①春期講演会・中堅企業支援セミナー 平成 27 年 7 月 9 日 富山大学工学部 参加者:88 名 ②秋期講演会・中堅企業支援セミナー 平成 27 年 12 月 8 日 高岡 JA 会館 参加者:76 名</p> <p>3.人材育成 ①幹事研修会 平成 27 年 12 月 15 日 田中精密工業(株)、(株)不二越、20 名 ②若手育成支援事業 ・工場見学 平成 27 年 9 月 3 日 三協立山(株)三協マテリアル社 YKKAP(株)、(株)TAN-EI-SYA 他 ・軽金属夏季講座 (主催・富山県アルミ産業協会)</p> <p>4.表彰関係 ①1 名推薦し、受賞。 ②1 名推薦し、受賞。 ③各々 1 名推薦し、受賞。</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 上記の機会に随時実施した</p>

<p>特記事項)</p> <p>2.①春期中堅企業支援セミナー 招待講演・学術講演・企業講演 「アルミニウムの表面処理」 日本ペイント・サーフケミカルズ(株) 松川真彦 「巨大ひずみ加工法による超微細粒アルミニウム合金の時効析出強化」 富山大学 李昇原 「ボルト用高強度アルミニウム合金線材の実用化状況」 富山住友電工(株) 高井博昭</p> <p>2.②秋期中堅企業支援セミナー 招待講演・学術講演・企業講演 「アルミニウム押出し加工のシミュレーションの現状—多種押出し加工の解析および歯車鍛造の解析」 日本大学 星野倫彦 「富山大学における押出し加工に関する研究紹介」 富山大学 高辻則夫 「Al-10%Si-Mg 系合金ダイカスト鋳物における凝固組織形成機構と時効硬化挙動」 富山大学 柳原恵美 「アルミ押出解析による金型設計のシミュレーション」 YKK AP(株) 森努</p> <p>協賛事業 ①日本鉄鋼協会北陸信越支部 湯川記念講演会 平成 27 年 7 月 10 日 富山第一ホテル ②日本金属学会北陸信越支部 本多光太郎記念講演会 平成 27 年 12 月 5 日 富山大学 ③富山大学材料科学国際シンポジウム(ICPMAT) 平成 27 年 11 月 17-20 日 タイ・チェンマイ大学 ④富山大学材料研究会 第 47 回研究発表会 平成 27 年 10 月 6 日 富山大学工学部、 第 48 回研究発表会 平成 28 年 2 月 9 日 富山大学工学部 ⑤富山大学 先端材料研究国際連携フォーラム 平成 27 年 12 月 9-10 日</p>

(5)東海支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会(1 回) ②評議会(1 回) ③理事会(3 回)</p>	<p>1.支部会合 ①総会 平成 27 年 4 月 28 日(名古屋大学) ②評議会 同上 ③理事会 第 1 回平成 27 年 7 月 9 日 (株)UACJ 第 2 回平成 28 年 1 月 20 日 (株)UACJ</p>

<p>④若手の会(軽進会)、女性の会</p> <p>2.講演会等</p> <p>①講演会(1回) ・第1回講演会</p> <p>②研究部会(航空機材料部会、プレス加工部会)</p> <p>3.人材育成</p> <p>①若手ポスター講演会</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①高橋記念賞推薦</p> <p>②軽金属希望の星賞一次選考、推薦</p> <p>③支部企業奨励賞</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>①TECH Biz2015:支部活動展示、講演会</p> <p>②イブニングセミナー 講演会、相談会</p>	<p>第3回平成28年3月15日 名古屋大学</p> <p>④若手の会(軽進会) 平成27年9月7日 (株)UACJ 見学 参加者8名</p> <p>若手の会(軽進会) 平成28年1月26日 三菱アルミニウム(株)工場見学 参加者8名</p> <p>女性の会 平成27年7月1日 日本軽金属(株)蒲原工場見学 参加者14名</p> <p>2.講演会</p> <p>①第1回講演会 平成27年4月28日 (名古屋大学) 88名参加</p> <p>②航空機部会 平成27年10月1日 プレス加工部会 平成27年11月24日 岐阜大学サテライトキャンパス 参加者43名</p> <p>3.人材育成</p> <p>①若手ポスター発表会 平成27年10月27日 名古屋大学 参加者56名、発表者28名 学生3名、企業2名のポスター優秀賞の表彰</p> <p>4.表彰関係</p> <p>①2名推薦し、2名受賞。 (株)デンソー 山田 勝 トヨタ自動車(株) 中田亮一</p> <p>②4名推薦し、4名受賞。</p> <p>③(株)ミヤキ 表彰</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p> <p>①TECH Biz 2015 平成27年11月18-20日 吹上ホール 講演会 参加者140名</p> <p>②イブニングセミナー 平成27年12月17日 名古屋市工業研究所 講演2件、見学、相談会 参加者28名、維持会員4社、非会員11社</p>
<p>特記事項)</p> <p>第1回講演会 テーマ「軽金属の組織制御による高性能化・高機能化」</p> <p>①「高強度 MDF マグネシウムの組織と特性」 豊橋技術科学大学 三浦博己</p> <p>②「巨大ひずみ加工による軽金属合金の微細組織制御と高性能化」 九州大学 堀田善治</p> <p>第5回女性の会 『アルミニウムの製錬について学ぼう！』</p> <p>①「日本のアルミニウム製錬の歴史」 日本軽金属(株) 杉田 薫</p> <p>プレス加工部会第8回懇談会 テーマ「数値解析精度向上に資する変形抵抗測定法の最前線」</p> <p>①「熱圧縮試験と逆解析による流動応力式の同定法」 東京電機大学 柳田 明</p> <p>②「高圧ねじり試験による超大ひずみ領域の変形抵抗測定」 (株)豊田中央研究所 与語康宏</p> <p>③「熱間圧縮試験における摩擦補正手法」 東北大学 千葉晶彦</p> <p>④「引張試験における負荷履歴測定の高精度化」 名古屋市工業研究所 村田真伸</p> <p>TECH Biz2015</p> <p>①「可視化技術を用いた接合技術の高度化」 大阪大学 藤井英俊</p> <p>②「自動車に適用されるアルミニウムの接合技術」 (株)神戸製鋼所 今村美速</p> <p>③「FSWを利用した大型アルミ製品の開発」 日本軽金属(株) 堀 久司</p> <p>④「アルミのFSWの現状と課題」 (株)UACJ 福田敏彦</p> <p>⑤「パイプの同時複数穴加工とアルミパイプの穴加工技術の開発」(株)シバ金型 芝世志造</p> <p>若手ポスター講演会</p> <p>①「放射光硬X線イメージングを用いた軽金属の3D/4Dイメージベース解析」 九州大学 戸田裕之</p> <p>イブニングセミナー テーマ「アルミニウム加工入門と成形試験の見学」</p> <p>①「アルミニウム合金の特性と板材成形」 (株)UACJ 上野洋一</p> <p>②「アルミニウム材の成形における潤滑油選定のポイント」 日本工作油(株) 吉田武志</p> <p>③「アルミニウムの成形性試験の見学(深絞り、曲げ、引張試験等)」 名古屋市工業研究所</p>	

(6)関西支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <p>①支部理事会(2回)</p> <p>②支部幹事会(2回)</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合</p> <p>①支部理事会 第1回平成27年4月14日 第2回平成28年1月5日</p> <p>②支部幹事会 第1回平成27年4月14日 第2回平成28年1月5日</p> <p>第130回春期大会、平成27年度支部事業、希望の星賞候補者に関する件などを議論。</p>

<p>2.講演会等 ①支部シンポジウム</p> <p>3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール ②若手研究者・院生による研究発表会</p> <p>③大学院生フィールドワーク助成プログラム</p> <p>④出前講座 軽金属需要喚起啓発ボランティアプログラム</p> <p>4.表彰関係 ①軽金属学会賞推薦 ②高橋記念賞推薦 ③軽金属功績賞推薦 ④軽金属功労賞推薦 ⑤軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ⑥支部表彰推薦</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 訪問活動継続</p>	<p>2.講演会等 ①「軽金属学会関西支部シンポジウム」 日時:平成 27 年 9 月 9 日 11:00~12:40 会場:関西大学 千里山キャンパス 参加者:57 名</p> <p>3.人材育成 ①上記、支部シンポジウムと同時開催 ②若手研究者・院生による研究発表会 日時:平成 27 年 12 月 16 日 10:00~19:00 場所:大阪府立大学 I-site なんば 参加者:102 名</p> <p>③大学院生フィールドワーク助成プログラム 関西大学から昭和電工、大阪工業大学から東洋アルミニウム(株)のフィールドワークの報告</p> <p>④出前講座 日時:平成 28 年 3 月 3 日 場所:堺市産業振興センター 「品質で差別化を図るセミナー～アルミニウム合金及びチタン合金を活用した製品価値向上を考える～」 参加者:17 名</p> <p>4.表彰関係 ①1 名推薦。 ②推薦なし。 ③推薦なし。 ④推薦なし。 ⑤5 名推薦し、5 名受賞。 ⑥朝日アルミニウム(株)を表彰。</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 川村義肢入会、継続的に勧誘。</p>
<p>特記事項)</p> <p>2.①軽金属学会関西支部シンポジウム 「MIT 海外留学体験記、アルミニウム合金中の水素挙動に関する話題」 大阪大学 堀川敬太郎 「マグネシウム-リチウム合金の腐食挙動に及ぼす各種因子」 関西大学 森重 大樹</p> <p>3.①関西軽金属サマースクール 「発泡アルミニウム表面へのスキン層形成加工と機械的特性」 大阪大学 松本 良 「アルミ缶の成形技術の発展とそれに対応した材料技術」 (株)神戸製鋼所 正田 良治 「双ロールキャストによる素材の作成」 大阪工業大学 羽賀 俊雄</p> <p>3.②若手研究者・院生による研究発表会 口頭発表 「生体内分解性クリップに向けたマグネシウム合金の組織制御」 神戸大学 仲 康介 「Mg-14wt.%Li-3wt.%Al 合金の耐食性に及ぼすミクロ組織の影響」 関西大学 小畑勇太郎 「マグネシウムの双晶生成に及ぼす添加元素の影響の分子動力学計算」 京都大学 宮澤直己 「高純度アルミニウムの再結晶に対する Fe, Zr, Mn, Cu, Si, Mg, Zn の影響」 大阪府立大学 和田光司 「Al-Mg 系合金の加工硬化と人工時効挙動に及ぼす Cu 添加の影響」 (株)神戸製鋼所 田中友己 「半凝固範囲が広域な Al 合金の双ロールキャスト」 大阪工業大学 大西隆介 「レーザ積層造形法を用いて作製した Al4CH アルミニウム合金の組織と機械的性質」 大阪大学 木村貴広</p> <p>ポスターセッション 55 件 特別講演『回復・再結晶』再考 - SEM-EBSD 同一視野観察- 兵庫県立大学 山本厚之 表彰「優秀発表賞」3 名、「ベストポスター賞」10 名 表彰状・副賞(アルミニウム製名刺入れ)</p> <p>3.④出前講座 (第 1 部)日鉄住金テクノロジー(株)大阪技術営業部部長 福井 清 (第 2 部)関西大学化学生命工学部教授 池田勝彦</p>	

(7)中国四国支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 第 1 回 支部役員会 平成 27 年 7 月 4 日(岡山大学)
2.講演会等 ①支部講演大会	2.講演会等 ①第 7 回 支部講演大会(岡山大学)

<p>②研究会(2回)</p> <p>3.人材育成 若手フォーラム</p> <p>4.表彰関係 支部賞(奨励賞、優秀講演賞、研究・開発奨励賞)表彰</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 岡山県工業技術センター(公設試)の村上浩二氏を中心に、中小企業に対する研修会等を開催。</p>	<p>平成27年7月4日 発表件数30件、参加者数52人</p> <p>②研究会 第1回(広島大学)平成27年7月29日 「軽量金属系材料の理論的・実験的な構造設計」 第2回(鳥取大学)平成27年12月11日 「3Dプリンタによる金属部材の積層造形技術」</p> <p>3.人材育成 平成27年12月15日若手フォーラム</p> <p>4.表彰関係 支部講演大会にて、優秀講演賞12件、研究・開発奨励賞5件、奨励賞14件表彰。</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動 平成28年3月2日-11日の10日間2名、3月14日-18日の5日間3名の研修実施。岡山県工業技術センターの鋳工業実務研修・設備使用制度を利用し、軽金属に関連する分野の技術者が、前処理・評価・解析機器の使用方法を習得した。</p>
---	---

<p>特記事項)</p>		
<p>第1回 支部研究会「軽量金属系材料の理論的・実験的な構造設計」(広島大学)</p>		
<p>講演題目</p>		
<p>「放電焼結における焼結機構と材料開発」</p>	<p>(財)広島市産業振興センター</p>	<p>倉本英哲</p>
<p>「DV-Xα分子軌道計算法を用いた材料設計と開発」</p>	<p>岐阜高等専門学校</p>	<p>本塚 智</p>
<p>「計算機支援による金属および金属基複合材料の開発および評価」</p>	<p>広島大学</p>	<p>杉尾健次郎</p>
<p>「DV-Xαクラスター法による軽金属合金の設計と特性評価 -Ti系、Al系、Zn系およびBi系合金について-」</p>	<p>広島大学</p>	<p>許 哲峰</p>
<p>第2回 支部研究会「3Dプリンタによる金属部材の積層造形技術」(鳥取大学)</p>		
<p>講演題目</p>		
<p>「レーザ積層造形技術の現状と将来展望」</p>	<p>近畿大学</p>	<p>京極秀樹</p>
<p>「金属粉末レーザ積層造形法における造形物の高性能化」</p>	<p>大阪府立産技研</p>	<p>中本貴之</p>
<p>「電子ビーム積層造形技術と新たな金属組織制御技術」</p>	<p>東北大学</p>	<p>千葉晶彦</p>
<p>「熱溶融積層法で作製した金属系材料の機械的性質」</p>	<p>弓削商船高専</p>	<p>福田英次</p>
<p>若手フォーラム</p>		
<p>講演題目</p>		
<p>「Al-Mn-X合金の組織・引張特性と合金設計」</p>	<p>広島大学</p>	<p>坂本 晋</p>
<p>「自動車のポール側面衝突を模擬した角形アルミニウム管動的曲げ挙動の有限要素法解析」</p>	<p>岡山大学</p>	<p>原 昂佑</p>
<p>「カーボンナノファイバー強化金属基複合材料の新しい製造プロセスの開発」</p>	<p>広島大学</p>	<p>氏野洋志</p>
<p>「複合添加によるAl-Si系鋳造合金の固溶強化」</p>	<p>広島大学</p>	<p>瀧川大貴</p>
<p>「電気比抵抗測定によるAl-Mg₂Si合金の時効析出挙動の評価」</p>	<p>広島大学</p>	<p>西側貴司</p>
<p>「放電焼結法によるTiB₂/Al複合材料の作製と機械的・熱的性質の評価」</p>	<p>広島大学</p>	<p>廣瀬貴昭</p>
<p>「多結晶有限要素解析による純チタン板材の表面及び内部の不均一変形に関する検討」</p>	<p>岡山大学</p>	<p>柿原大毅</p>

(8)九州支部

計画	実施状況
<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①役員会(2回) ②例会(2回)</p> <p>2.講演会等 合同学術講演会共催</p> <p>3.人材育成</p> <p>4.表彰関係 ①高橋記念賞 ②若手優秀ポスター</p> <p>③軽金属功労賞 ④軽金属希望の星賞 ⑤優秀技術者表彰</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p>	<p>1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①②2回開催 平成27年7月31日 福岡アルミ工業(株) 平成28年1月29日 九州工業大学</p> <p>2.講演会等 平成27年6月6日 北九州国際会議場 日本鉄鋼協会・日本金属学会九州支部共催</p> <p>3.人材育成 上記合同学術講演会時に若手ポスター発表会を実施</p> <p>4.表彰関係 ①推薦なし ②学術講演会時の若手優秀ポスター発表者 7名に対して例会で講演発表・記念盾贈呈 ③推薦なし。 ④4名推薦し、4名受賞。 ⑤該当者なし。</p> <p>5.維持会員加入勧誘活動</p>

	役員会において維持会員の新規加入依頼。	
特記事項)		
1.②例会 平成 27 年 7 月 31 日(金) 講演		
「金属光沢を有する高意匠性マグネシウム表面処理技術の開発」	福岡県工業技術センター	古賀弘毅
「難燃性マグネシウム合金の溶解・鋳造に関する研究」	大分県産業科学技術センター	園田正樹
「KUMADAI マグネシウム合金の研究開発動向」	熊本大学	山崎倫昭
九州支部合同学術講演会ポスター賞受賞講演 7 名		
2.②例会 平成 28 年 1 月 29 日講演		
「マテリアルズインテグレーションにおける計算材料学	ー計算状態図の現状ー 九州工業大学	長谷部光弘
「生体用チタン合金の弾性的性質に関する基礎研究」	長崎大学	白石孝信
「マグネシウム伸線と応用製品」	ジャパンファインスチール(株)	三宮大喜
「フォーミング断熱材の開発」	大光炉材(株)	平山武靖

II. 処務の概況

[1] 役員等に関する事項

1. 役員

職名	氏名	常勤 非常勤	就任年月日 (最初の就任の時)	重任年月日 (現在の任期開始時)	報酬	担当 * 委員長	現職名
代表理事・ 会長	金子 明	非常勤	平成 27 年 5 月 16 日		なし	組織 *	㈱神戸製鋼所代表取締役副社長 アルミ・銅事業部門長
代表理事・ 副会長	本保元次郎	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	総合計画 * 組織	千葉工業大学教授
同上	池田勝彦	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	総合計画 大会運営	関西大学教授
理事	興戸 正純	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	大会運営 *	名古屋大学教授
同上	鎌土 重晴	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	研究	長岡技術科学大学教授
同上	河村 能人	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	国際交流	熊本大学先進マグネシウム国際研 究センター長
同上	久保田正広	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	国際交流 *	日本大学教授
同上	コマロフ・セ ルゲイ	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	研究	東北大学教授
同上	佐々木 元	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	研究会 支部長会	広島大学教授
同上	佐藤 英一	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	編集 *	航空宇宙研究開発機構教授
同上	鈴木 進補	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	総務	早稲田大学教授
同上	高辻 則夫	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	研究会	富山大学教授
同上	高橋 英徳	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	支部長会 *	北海道立総合研究機構研究主幹
同上	羽賀 俊雄	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	総務	大阪工業大学教授
同上	廣澤 渉一	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	企画	横浜国立大学教授
同上	渡辺 義見	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	総務・編集	名古屋工業大学教授
同上	相浦 直	同上	平成 21 年 5 月 22 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	企画 * 国際交流	㈱神戸製鋼所アルミ・銅事業部門 技術担当部長
同上	阿見 秀一	同上	平成 24 年 5 月 19 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	大会運営	三協立山㈱取締役執行役員
同上	磯部 保明	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	企画	㈱デンソー材料技術部担当部長
同上	神戸 洋史	同上	平成 23 年 5 月 21 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	編集	日産自動車㈱成形技術部鑄造技 術グループ シニアエキスパート
同上	小山 克己	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	編集	㈱UACJ 技術開発研究所 深谷センター長
同上	土田 孝之	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	研究 *	日本軽金属㈱執行役員
同上	栃木 雅晴	同上	平成 23 年 5 月 21 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	研究会 *	昭和電工㈱コーポレートフェロー 小山事業所長
同上	村松 俊樹	同上	平成 23 年 5 月 21 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	総務 *	㈱UACJ 技術開発研究所 上席主幹
同上	山口恵太郎	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	研究 財務	三菱アルミニウム㈱ 研究開発部部長
監事	福井 康司	同上	平成 25 年 5 月 18 日	平成 27 年 5 月 16 日	同上	監事	東洋アルミニウム㈱ 取締役常務執行役員
同上	三輪 謙治	同上	平成 27 年 5 月 16 日		同上	同上	元産業技術総合研究所

[2] 職員に関する事項

職名	氏名	常勤・非常勤	採用年月日	担当事務	備考
事務局長	石川和徳	常勤	平成 25 年 1 月 1 日	全般	平成 25 年 6 月 1 日就任
職員	前田その美	常勤	平成 8 年 4 月 1 日	庶務	
職員	木村明子	常勤	平成 8 年 4 月 1 日	編集	
職員	高野正明	非常勤	平成 16 年 4 月 1 日	経理	平成 28 年 3 月 31 日退任
職員	中村秀樹	非常勤	平成 28 年 2 月 1 日	経理	

[3] 会議等に関する事項

1. 総会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
定時総会	27年5月16日	1. 平成26年度事業報告に関する件(報告) 2. 平成26年度決算報告に関する件(審議) 3. 平成27年度事業計画の件(報告) 4. 平成27年度収支予算に関する件(報告) 5. 名誉会員の推薦に関する件(審議) 6. 平成27・28年度役員選任に関する件(審議)	1. 全員異議なく原案通り確認。 2. 全員異議なく原案通り承認可決。 3. 全員異議なく原案通り確認。 4. 全員異議なく原案通り確認。 5. 全員異議なく原案通り承認可決。 6. 全員異議なく原案通り承認可決。

2. 理事会(審議事項のみ記載)

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第31回	27年4月27日	<p>【審議事項】</p> 1. 平成27年度定時総会に関する件 ①平成26年度事業報告に関する件 ②平成26年度決算報告に関する件 2. 第32回理事会議案に関する件 3. 規程類の改定に関する件 4. 会員異動に関する件 <p>【報告事項】</p> 1. 他学会との協賛事業の件 2. 常設委員会報告 3. 科学技術イノベーション重点的課題等に対する学協会の対応(案) 4. 日本工学会公開シンポジウム講演依頼 5. 名古屋大学グリーンモビリティ連携研究センター要請	<p>【審議事項】</p> 1. 一部修正し全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 投稿規程、国際交流委員会規程、託児室規程、支部規程、軽金属表彰規程改定を一部修正し全員異議なく承認可決。 4. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> 1. 資料に基づき報告。 2. 大会運営、企画、国際交流、総務、総合計画委員会から報告。 3. 戸田理事対応案を確認した。 4. 講演依頼受諾することを確認した。 5. 文科省へのサポートレター提出を全員異議なく確認した。
第32回	27年5月16日	<p>【審議事項】</p> 1. 会長及び副会長選任に関する件 2. 役員の仕事担当に関する件	<p>【審議事項】</p> 1. 金子会長、本保・池田副会長を承認 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。
第33回	27年6月26日	<p>【審議事項】</p> 1. 常設委員会委員選任に関する件 2. 選考委員会委員選任に関する件 3. 第130回春期大会実行委員会委員(案)および予算(案)に関する件 4. 会員異動に関する件 5. 材料戦略委員会・企画委員交代に関する件 <p>【報告事項】</p> 1. 役員変更登記に関する件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 5・6月開催の常設委員会報告 4. 総務・企画人材育成検討WG報告 5. 参与会(7月8日)開催案内 6. 学会指標	<p>【審議事項】</p> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。各階層での人材育成を検討することとした。 5. 資料に基づき報告。 6. 事業収支、会員数・講演大会参加者数・シンポジウム等講演会参加者数・会誌掲載記事数など推移を報告。
第34回	27年9月30日	<p>【審議事項】</p> 1. 軽金属論文賞・論文新人賞、小山田記念賞、高橋記念賞、躍進賞、奨励賞、女性未来賞選考に関する件 2. 会員異動に関する件 3. 常設・選考委員会委員変更に関する件 <p>【報告事項】</p> 1. 第128回春期大会決算報告に関する件 2. H27年度中堅企業研究開発支援プログラムに関する件 3. 人材育成事業に関する件 4. 他学会との協賛事業に関する件	<p>【審議事項】</p> 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 3. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 <p>【報告事項】</p> 1. 資料に基づき報告。 2. 上期進捗、維持会員入退会状況を資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。

		5. 7月・9月の常設委員会報告 6. 参与会、マイナンバー制度対応	5. 資料に基づき報告。 6. 資料に基づき報告。
第 35 回	27 年 10 月 28 日	【審議事項】 1. 学会賞・功労賞・功績賞選考委員に関する件 2. 中間決算報告 3. エネルギー利用技術作品コンテスト表彰に関する件 4. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 支部中間活動報告 2. 他学会との協賛事業に関する件 3. 10 月開催常設委員会報告 4. 博士課程への進学促進提案	【審議事項】 1. 監事を選考委員から除外し、原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 2 件の表彰を原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。協議継続。
第 36 回	28 年 1 月 29 日	【審議事項】 1. 軽金属希望の星賞選考に関する件 2. 第 131 回秋期大会実行委員会委員構成(案)および予算書(案)に関する件 3. 研究部会・延長の件 4. 平成 28 年度支部費配賦額に関する件 5. 事務局経理人事に関する件 6. 各種規程類の新設・改定に関する件(マイナンバー制度対応) 7. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 第 129 回秋期大会収支報告の件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 5. 臨時雇用を全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 7. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。
第 37 回	28 年 2 月 26 日	【審議事項】 1. 第 19 回軽金属学会賞に関する件 2. 第 18 回軽金属学会功労賞に関する件 3. 第 14 回軽金属功績賞に関する件 4. 研究部会新設に関する件 5. H28 年度特別維持委員会会費に関する件 6. 会員・常設委員会委員異動に関する件 7. 一般社団法人平成 28 年度定時総会開催に関する件 【報告事項】 1. 平成 27 年度収支決算見込みおよび平成 28 年度予算案に関する件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 7. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全異議なく予決算案を確認した。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。
第 38 回	28 年 3 月 25 日	【審議事項】 1. 平成 28 年度事業計画に関する件 2. 平成 28 年度収支予算に関する件 3. 投稿規程の改定に関する件 4. 会員異動、常設委員会委員交代に関する件 【報告事項】 1. 支部平成 27 年度活動報告および平成 28 年度活動計画について 2. 研究部会平成 27 年度事業報告および平成 28 年度事業計画について 3. 他学会との協賛事業の件 4. 常設委員会報告の件 5. 第 19 回エネルギー利用技術作品コンテスト 6. 常設委員会出席率	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 全員異議なく、確認した。 3. 全員異議なく、確認した。 4. 資料に基づき報告。 5. 関東支部に審査依頼。 6. 平均以下の委員会の原因対策要請。

3. 常設委員会

(1)総合計画委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
前期第12回	27年4月27日	1. 常設委員会平成25・26年度活動報告と引継事項 2. 常設委員会出席率	1. 各常設委員会案を確認した。 2. 平均出席率が66.4%であることを確認。
第1回	27年6月26日	1. 金子会長挨拶 2. 前期常設委員会からの引継事項 3. 今期常設委員会活動計画 4. 総務・企画人材育成事業 5. 中堅企業支援 R&D プログラム 6. 学会指標	1. 会長方針を説明。 2. 引継事項を確認。 3. 常設委員会活動計画を確認。大会方向性、国際化など検討追加。 4. 資料に基づき報告。 5. 支部長へ活動継続要請。 6. 資料に基づき報告。
第2回	27年9月30日	1. H27年維持会員技術開発支援プログラム 2. 人材育成事業について 3. 2022年ICAA18日本誘致について 4. 常設委員会活動報告	1. 今期活動を資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 2016年6月に重慶ICAAにて日本誘致の意思表示を行うこととした。 4. 支部長意向を考慮した功労賞、希望の星賞、高橋記念賞の規程改定状況報告。
第3回	27年10月28日	1. 支部活動中間報告(中堅企業支援活動状況) 2. 上期決算報告 3. H28年度支部費配賦案 4. 常設委員会報告 5. その他	1. 各支部長から活動報告。 2. 決算内容確認。今後、理事会報告。 3. 配賦案承認。今後支部長合意確認。 4. 国際交流委員会から活動報告。 5. 支部間格差問題を継続協議。
第4回	28年2月26日	1. 平成27年度決算予測および平成28年度予算案について 2. ICAA18(2022年)日本誘致について 3. 人材育成事業について 4. 常設委員会課題フォロー	1. 原案のとおり確認。 2. 重慶にて誘致表明を決定。 3. 学会方針を継続協議決定。 4. 講演大会3日制、ポスター審査方法変更、英語セッション導入、論文投稿数増加、広報活動、維持会員増強、支部間格差など継続協議決定。
第5回	28年3月25日	1. 平成28年度事業計画・予算案について 2. 支部平成27年度活動報告と平成28年度活動計画 3. 常設委員会検討課題フォロー・協議	1. 原案のとおり確認。 2. 中堅企業支援活動を中心に原案のとおり確認。 3. 維持会員増強、人材育成事業、希望の星賞規程改定、常設委員会出席率について協議。

(2)総務委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
前期第2回人材育成WG	27年4月6日	1. オープンキャンパスへの軽金属製品提供の具体策 2. 支部見学会での中高教員参加勧誘方法 3. エネコン主催学会とのコラボレーション案 4. 人材育成事業に関するアンケート実施方法	1. 製品提供の内容、日程を決定した。 2. 関東支部で実施することとした。 3. 愛媛大学での日本産業技術教育学会に軽金属学会紹介ブースを出展する案を今後検討することとした。 4. 次期人材育成WGで検討。
第261回	27年4月15日	1. 規程改定 2. パンフレットに関するアンケート 3. 人材育成事業に関する件 4. HPに関するアンケートの件 5. 25・26年度活動まとめと引継事項	1. 規程5件、細則1件を承認。 2. アンケート案を承認し、支部実行委員、新入会員を対象に実施することとした。 3. 軽金属製品29件の供与・貸与募集を大学・高専に一斉案内することとした。 4. 次期委員会にて実施することとした。 5. 引継事項を全員異議なく確認した。
第1回総務・企画人材育成検討WG	27年6月18日	1. 愛媛大学での日本産業技術教育学会出展 2. 新規人材育成検討WGメンバー選任 3. 日本アルミニウム協会とのコラボレーション 4. 人材育成事業の進め方 5. 日本産業技術教育学会とのコラボレーション	1. 展示パネル、製品案を決定。 2. 11名のメンバーを選任。 3. 冊子、アルミエージ、イベント缶の協力を依頼。 4. 支部展開、製品供与を協議。 5. 出展以外は様子を見て決定する。

第 2 回 総務・企画人 材育成検討 WG	27 年 7 月 13 日	1. WG 長選任 2. 8/22-23 愛媛大学出展内容 3. 日本産業技術教育学会とのコラボレーション 4. 製品供与・貸与の結果報告と次回実施計画 5. 支部工場見学会企画 6. 他の人材育成事業内容検討	1. 日軽金・小林秀行氏に WG 長決定。 2. パネル、製品、説明員等、決定。 3. 今回展示の結果をもって判断する。 4. 宇都宮大学のオープンキャンパス開催報告執筆依頼。他大学にも依頼。 5. 関東支部 12 月開催時に小中高教員に参加勧誘を行う。 6. 階層別の人材育成事業を検討する。鑄造工学会の事例を調査する。
第 262 回	27 年 7 月 15 日	1. 引継事項と今期活動について 2. 入会案内パンフレット改定について 3. 人材育成検討 WG について 4. HP の改定について 5. 規程類の改定について 6. 第 129 回秋期大会懇親会アルミ缶ビール代寄付のお願い。	1. 担当、活動内容を決定した。 2. アンケート結果を踏まえて改定版を検討する。中堅企業以外向けの必要性、人材育成事業紹介も検討する。 3. 製品供与・貸与、日本産業技術教育学会全国大会出展、階層別人材育成事業を協議。 4. 事務局要望と改定内容意見交換。 5. 功労賞、軽金属希望の星賞に関する支部長意向を確認し、細則改定を予定。 6. 軽圧 5 社及び三協立山に加え、YKK AP への従来同様寄付の依頼を承認。
第 263 回	27 年 9 月 11 日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告 4. 軽金属希望の星賞支部推薦枠	1. 製品供与・貸与、日本産業技術教育学会全国大会出展の会誌記事確認と秋期大会展示決定。 2. 功労賞、軽金属希望の星賞、高橋記念賞など支部長会の意見を参考に改定案作成。TV 会議システム検討。 3. 学会紹介パワーポイント資料検討。 4. 昨年同様、支部推薦枠 25 名決定。
第 3 回 総務・企画人 材育成検討 WG	27 年 9 月 24 日	1. 8 月 22-23 日愛媛大学出展報告 2. 大学・高専への製品供与・貸出について 3. 秋期講演大会での人材育成コーナー展示 4. 学会 HP・人材育成の更新 5. 他の人材育成事業内容検討	1. 会誌掲載記事、アンケート結果確認。 2. オープンキャンパス開催報告確認。 3. 展示決定し、大会運営委員会へ報告。 4. 事務局改定案を作成。 5. 支部工場見学会に高校教諭勧誘を実施。階層別事業、他学会事例を協議。
第 4 回 総務・企画人 材育成検討 WG	27 年 11 月 6 日	1. 秋期大会人材育成コーナー展示について 2. 次年度の製品供与・貸出について 3. 鑄造工学会の人材育成取組について 4. 学会 HP・人材育成の更新	1. 展示ブース、展示品、アンケート、説明員配置等、詳細決定。 2. 大会展示で先生方意向確認後決定。 3. 神戸洋史氏から紹介。学会取組を協議。 4. コンテンツ追加承認。
第 264 回	27 年 11 月 6 日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告 4. 維持会員増強 WG 報告 支部活動フォロー	1. 秋期大会展示、HP 更新決定。鑄造工学会事例紹介、本学会での人材育成事業継続協議。 2. マイナンバー制度対応の特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針、情報の管理及び守秘義務等規程、特定個人情報取扱規程提示。WG で内容確認実施予定。 3. 人材育成コーナーのコンテンツ追加承認。全面改定のコンセプト構築を予定。 4. 支部中間活動報告。
第 265 回	28 年 1 月 14 日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告 4. 希望の星賞 2 次選考	1. 秋期大会展示報告。次年度製品貸出計画と人材育成事業継続協議。 2. マイナンバー制度対応の規程類を承認し、理事会上申を決定。 英語版 Materials Transactions 投稿規程修正し、編集委員会へ差し戻し。 軽金属希望の星賞規程に秋卒業者規定追加検討。 3. 会員にアンケート実施。 4. 33 名全員を選考し、理事会上申。

第 5 回 総務・企画人材育成検討WG	28年1月27日	1. 秋期大会での人材育成コーナー展示報告 2. 今後の人材育成事業について 3. 学会 HP・人材育成の更新	1. アンケート回答、反省事項を協議。 2. 平成 28 年度も製品貸出実施決定。工場見学会の開催方法を継続協議する。 3. HP 更新内容を確認した。
第 6 回 総務・企画人材育成検討WG	28年3月17日	1. 今後の人材育成事業について	1. 来期製品供与・貸与事業内容決定。中高生向け工場見学会は内容見直しが必要。総合計画委員会での学会ビジョン・方針策定のための階層別事業内容を議論。
第 266 回	28年3月17日	1. 人材育成検討 WG 報告 2. 規程・パンフ WG 報告 3. HP・広報 WG 報告 4. 総会資料確認	1. 来期製品供与・貸与事業決定し、募集開始。中高生向け最適企画検討。 2. 希望の星賞、投稿規程、定款、理事会規程改定 3. HP 改定に関するアンケート案検討 4. 事業報告、計画資料の内容確認

(3)企画委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
前期 第 11 回	27年4月6日	1. 93 回シンポジウム開催報告 2. 96 回シンポジウム案 3. 軽金属基礎講座 4. 軽金属セミナー 5. 基礎講座テキスト改訂 6. 人材育成事業 7. 今期活動まとめと次期引継事項	1. アンケート結果、会誌掲載承認。 2. 11 月開催に向け講師検討。 3. 9/10,11 開催の会告案決定。 4. 32 回初級編、33 回中級編会告案決定。 応用編内容・講師検討 5. 6 月末に 4 件原稿提出予定。 6. 軽金属製品供与申込を 5 月に募集。 7. 引継事項を全員異議なく確認した。
第 1 回	27年7月13日	1. 引継事項と今期活動について 2. シンポジウム開催報告 3. 新規セミナー・シンポジウム案 4. 軽金属基礎講座 5. 人材育成事業	1. 担当、活動内容を決定した。 2. 94 回、95 回開催概要報告。 3. 96 回(鉄道車両)は 11 月 6 日、97 回(鑄造)は 12 月 14 日開催決定。 4. 大島委員の世話人参加決定。現在 24 名の参加申込みに対して、上限は 50 名に仮決定。 5. 人材育成検討 WG 報告
第 2 回	27年9月24日	1. 担当選任 2. セミナー、基礎講座開催報告 3. 新規シンポジウム案 4. 人材育成事業 WG 報告 5. セミナーDVD 無料貸出アンケート回答結果	1. 99、100 回シンポジウム担当決定。 2. 開催報告記事、アンケート結果確認。 3. 96 回(鉄道車両)、97 回(オバケ部会)、98 回(マグネシウム・女性講師企画)内容承認。 4. 日本産業技術教育学会全国大会(愛媛大学)出展、当学会秋期大会展示内容報告。 5. DVD 活用方法検討を協議。
第 3 回	27年11月4日	1. シンポジウム企画案 2. セミナー企画案 3. 質問票見直し 4. 人材育成 WG 報告	1. 98 回(マグネ)、99 回(押出)、100 回(接合)、101 回(複合材)、102 回(表面処理)の企画案決定。 2. 入門編第 4 回、中級編第 2 回、応用編第 1 回の企画案決定。 3. シンポジウムは質問票を廃止し、パネルディスカッション案提案書に変更。 4. 129 回秋期大会展示内容報告。
第 4 回	28年1月27日	1. シンポジウム開催報告 2. シンポジウム企画案 3. セミナー企画案 4. 平成 28 年基礎講座案 5. セミナーDVD 録画 6. 人材育成 WG 報告	1. 96 回、97 回開催報告記事、アンケート結果を確認した。 2. 98 回-102 回の企画案を協議した。 3. 入門編第 5 回、中級編第 3 回、応用編第 1 回の開催日程協議。 4. 9 月 8-9 日開催の講師変更を協議。 5. 初級セミナー録画の中止決定。 6. 129 回秋期大会展示報告。

第5回	28年3月23日	<ol style="list-style-type: none"> 1. セミナー開催報告 2. シンポジウム企画案 3. セミナー企画案 4. 平成28年基礎講座案 5. シンポジウム・セミナー配布資料のカラー化 6. シンポジウム等参加費見直し 7. 人材育成WG報告 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入門編第4回、中級編第2回のアンケート結果を確認した。 2. 98回-102回の企画案を協議した。 3. 今後のセミナー開催予告を作成。入門編第5回、中級編第3回、応用編第1回の日程、内容を確認した。 4. 講師交代、日程の調整を実施。 5. 資料カラー化実施を決定。 6. 他学協会との比較を実施。 7. 来期製品供与・貸与事業内容確認。
-----	----------	--	---

(4)編集幹事会・委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第584回幹事会	27年5月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 軽金属4~6月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属7月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 <ol style="list-style-type: none"> 1)著作権・規程G報告 2)会報G報告 3)特集号G報告 4)連載講座G報告 5)次期引継事項 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各G検討結果報告。 <ol style="list-style-type: none"> 1)執筆要領改訂案、Mater.Transへの投稿規程と執筆要領英語版案検討。 2)解説:最終講義2件、軽金属奨学会60周年記念講演転載2件、三協立山(Mg)鋳造技術の執筆等を依頼。 3)特集号: H28年5月マグネシウム関係テーマセッション計画。年間レビューの原稿確認。 4)先行4WGメンバーで6月末原稿作成予定。 5)引継事項を全員異議なく確認。
第1回編集委員会	27年5月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 軽金属誌の現状 2. 特集号 3. 新連載講座 4. 記事活性化 5. 規程類 6. 次期引継事項 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現状を確認。 2. 内容を確認。 3. 内容を確認。 4. 技術史、解説特集、年間レビューの内容を確認。 5. 規程類改定内容を確認。 6. 内容を確認。
第585回幹事会	27年7月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 軽金属6~8月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属9月号掲載内容報告・確認 4. 前期引継事項確認・WG担当選任 5. 軽金属誌活性化状況報告 <ol style="list-style-type: none"> 1)著作権・規程G報告 2)会報G報告 3)特集号G報告 4)連載講座G報告 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 引継内容、前期WGの担当案を確認。 5. 各G検討結果報告。 <ol style="list-style-type: none"> 1)執筆要領改訂案、Mater.Transへの投稿規程と執筆要領英語版案再検討。 2)解説:「アルミニウムの製品と製造技術」(緑本)ベースのユーザー目線から見たアルミニウム材への要求と期待、製造を支える周辺技術、3Dプリンタ等を依頼。過去解説記事も参照。 3)特集号: H28年5月マグネシウム関係テーマセッション解説案確認。 4)先行3WGメンバーの投稿日程、10月号開始を確認。
第586回幹事会	27年9月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 軽金属8~10月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属11月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 <ol style="list-style-type: none"> 1)著作権・規程G報告 2)会報G報告 3)特集号G報告 4)連載講座G報告 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各G検討結果報告。 <ol style="list-style-type: none"> 1)英文投稿規程修正内容確認。 2)私の一枚今後の計画、会報記事案:人材育成事業紹介、大学オープンキャンパス開催報告(はぐくむ)、積層造形技術、解説企画案報告。 3)11月、5月特集号内容協議。 4)10月号から掲載スタートし、後半部分

		5. ICAA プロシーディングスの WEB 公開	の原稿執筆要請。 5. 金属学会から転載許諾を受けてドイツ ICAA 委員に公開依頼。
第 587 回 幹事会	27 年 11 月 9 日	1. 軽金属 11~12 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 1 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 著作権・規程 G 報告 2) 会報 G 報告 3) 特集号 G 報告 4) 連載講座 G 報告 5. 秋期大会編集委員会議題 6. 出版事業報告	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 英文投稿規程総務委員会上申。 2) 5 製品の解説依頼、連載企画「系譜図：軽金属学会を支えた大学冶金・金属工学学科」協議。 3) 2 月、11 月特集号内容、2015 年間レビューとりまとめ役協議 4) 後半部分の原稿執筆要請。新規連載企画(シミュレーション技術他)協議。 5. 内容を確認。 6. 掲載記事推移、JSTAGE アクセス件数推移、投稿論文持ち件数、中間決算など報告。
第 2 回 編集委員会	27 年 11 月 22 日	1. 軽金属誌の現況 2. 特集号 3. 新連載講座 4. 記事活性化 5. 規程類	1. 現状を確認。 2. 内容を確認した。 3. 内容を確認した。 4. 私の一枚 100 編収集、出版計画を報告。 5. 英文投稿規程改定案を確認した。
第 588 回 幹事会	28 年 1 月 20 日	1. 軽金属 1~2 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 2~3 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 著作権・規程 G 報告 2) 会報 G 報告 3) 特集号 G 報告 4) 連載講座 G 報告 5. 商業誌出版 6. その他	1. 進捗状況を確認した。 2. 校閲状況を確認した。 3. 掲載内容を確認した。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 英語版投稿規程総務委員会修正依頼対応、カラー印刷代の値下げを協議。 2) 製品の解説その他 10 件、編集委員提案の解説 4 件、超音波利用に関する解説依頼を決定。 3) 11 月、2017 年 5 月特集号内容を協議。 4) チタン 20 回連載を決定。シミュレーション技術連載は WG で内容検討予定。 5. 生産技術連載講座、私の一枚出版のため業者見積依頼中。 6. 投稿推薦による投稿状況、平成 27 年度 JSTAGE アクセス件数、投稿論文持ち件数 20 件の要請など報告。
第 589 回 幹事会	28 年 3 月 22 日	1. 軽金属 4~5 月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属 4~5 月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 著作権・規程 G 報告 2) 会報 G 報告 3) 特集号 G 報告 4) 連載講座 G 報告 5. 商業誌出版 6. その他	1. 進捗状況を確認した。 2. 校閲状況を確認した。 3. 掲載内容を確認した。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 英語版投稿規程再修正案を総務委員会に提出。 2) 製品の解説執筆依頼先を決定し、来年 1 月から連載開始。アルミニウム協会研究助成の 1 件解説依頼。 3) 7 月号の東海支部特集内容を確認。2017 年 5 月特集号内容構成案提出要請。 4) チタン 21 回連載の原稿提出期限早期化、査読担当決定を依頼。シミュレーション技術連載は次期委員会に引継。 5. 技術連載講座、私の一枚出版費用見積もりを他社にも依頼。 6. 投稿増加策として編集委員メンバーへの投稿要請実施を決定。出版事業予算から投稿料無料化の可能性を協議。

(5)国際交流委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
前期 第10回	27年4月7日	1. ALMA 運営について 2. 第10回軽金属国際ワークショップ開催報告 3. 台湾軽金属協会来日対応 4. 課題と引継事項	1. HP活用方法、Forum内容改善、国際交流委員会規程改定を協議。 2. 開催報告内容を確認。 3. 5/25-27への日程変更の対応策を協議。 4. 引継事項を一部追加。
第1回	27年9月15日	1. 前期引継事項と今期活動について 2. 国際会議開催について ①ALMA2016 ②ICAA18(2022年)日本誘致案 ③軽金属国際ワークショップ 3. 国際交流について 4. 学会のグローバル化策について	1. 活動内容・担当を議論・決定。 2. 開催計画を議論。 ①2016年8月関西地区開催計画。 ②2016年6月重慶ICAAで日本誘致意思表示、スケジュール概略、予算規模確認。 ③富山大赴任予定のG.J.Shiflet先生に依頼。 3. ALMA HP修正と相互利用ルール作成を計画。 4. 他学会の事例を調査し、今後検討。
第2回	27年10月20日	1. 国際会議開催について ①ALMA2016開催 ②ICAA18(2022年)日本誘致案 ③軽金属国際ワークショップ 2. 国際交流について 3. 学会のグローバル化策について	1. 開催計画を議論。 ①開催会場案検討、担当決定。 ②北陸支部立候補。 ③3案を議論。富山大フォーラム共催の形で開催予定。 2. ALMA HP運用ルール協議。 3. 他学会事例紹介。本委員会の役割協議継続。
第3回	27年12月14日	1. ALMA2016開催 2. 国際交流について 3. 学会のグローバル化策について 4. 第11回軽金属国際ワークショップ	1. 京都開催案、講演者、担当役割分担、会告を協議 2. ALMA HP運用ルール協議継続。 3. 協議継続。 4. 12月9日、10日富山大学フォーラムで共催実施の内容報告。
第4回	28年3月2日	1. ALMA2016開催について 2. ICAA18(2022年)日本誘致 3. 学会のグローバル化策	1. 公告、プログラム、予算、講演者6名、海外PRICM参加者募集決定。 2. 誘致スケジュール確認。 3. 海外学会との講演大会交流セッション案等、協議。

(6)大会運営委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第1回	27年8月4日	1. 前期引継事項と企業・大会運営WG報告 2. 第128回春期大会について 3. 第129回秋期大会について 4. 第130回秋期大会について 5. 若手の会、女性会員の会の報告 6. 第129回大会プログラム編成について	1. 前期引継事項確認。企業交流会・講演分類アンケート結果、ポスター賞採点・集計について報告。 2. 大会収支決算と反省事項確認。 3. 会場設定案を確認。 4. 実行委員、予算、会場案を確認。 5. 会誌掲載の開催報告を確認。 6. プログラム、座長、ポスター審査員を決定。7会場、175件(テーマセッション4件含む)、ポスター43件、招待講演4件
第2回	27年9月25日	1. 企業WG報告 2. 運営WG報告 3. 秋期大会での人材育成事業紹介展示 4. 女性会員の会報告	1. 129回秋期大会企業交流会内容決定。リクルート企画、企業発表促進策継続検討。 2. 大会3日案、英語セッション、講演分類見直し、他学会連携など今後検討。 3. 3F総合受付付近の展示実施承認。 4. 確認事項協議。
第3回	28年1月26日	1. 第129回秋期大会の決算および反省点 2. 第130回春期大会の開催計画 3. 第131回秋期大会について 1)開催計画概要、予算、実行委員会名簿 2)テーマセッション募集日程	1. 決算および反省点について報告。 2. 資料に基づき報告、確認。 3. 1)資料に基づき報告、確認。 2)資料に基づき報告、確認。

		<p>4. 企業 WG 報告・討議</p> <p>1)企業セッションアンケート結果、改善策</p> <p>2)130 回大会企業交流会計画</p> <p>5. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)講演分野見直し</p> <p>2)大会会期見直し</p> <p>3)ポスター採点方法見直し</p> <p>4)英語セッション導入</p> <p>5. 若手の会、女性会員の会の報告</p> <p>6. 秋期大会人材育成事業紹介展示報告</p> <p>7. 第 130 回大会プログラム編成について</p>	<p>4.</p> <p>1)アンケート結果、改善案報告。</p> <p>2)土曜日に 70 分枠で実施。</p> <p>5.</p> <p>1)当面新分類を継続。</p> <p>2)2 日制から 3 日制移行を検討。</p> <p>3)審査員数削減策を検討。</p> <p>4)英語発表募集方式を検討。</p> <p>5. 両会からの報告を確認。</p> <p>6. 製品貸出を次年度も継続決定。</p> <p>7. 新講演分類にてプログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。</p>
--	--	--	--

(7)研究委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 1 回	27 年 9 月 8 日	<p>1. 引継事項</p> <p>2. 新設部会報告(13 部会)</p> <p>3. 各研究部会の他学協会との研究連携</p> <p>4. 研究部会活動のHP紹介</p> <p>5. 人材育成の方向性アンケート回答</p>	<p>1. 部会毎のロードマップ作成要請。ロードマップ WG により、全体見直し実施。</p> <p>2. 各部会活動内容確認と要望事項。</p> <p>3. 関連他学会との連携検討要請。</p> <p>4. HP WG でこまめな部会情報発信方法を検討。</p> <p>5. 材料戦略委員会提出内容紹介。</p>
第 2 回	27 年 12 月 1 日	<p>1. 研究部会事業中間報告</p> <p>2. 研究部会報告書作成計画</p> <p>3. 研究部会延長申請</p> <p>4. ロードマップ WG 報告</p> <p>5. 広報 WG 報告</p>	<p>1. 10 部会の状況を報告。チタン部会の来期研究費助成決定。</p> <p>2. 成形性評価シミュレーションに関する技術開発部会の計画報告。</p> <p>3. 加工と熱処理による優先方位制御研究部会の 1 年延長を承認。</p> <p>4. 2017 年 3 月までに部会毎作成、学会版見直し、担当割り当てを協議。</p> <p>5. 部会活動 HP 紹介案協議。</p>
第 3 回	28 年 2 月 23 日	<p>1. 研究部会事業中間報告</p> <p>2. 研究部会平成 27 年度事業報告・28 年度事業計画</p> <p>3. 研究部会新設申請</p> <p>4. ロードマップ WG 報告</p> <p>5. 広報 WG 報告</p>	<p>1. 4 部会の状況を報告。多機能性材料部会の来期研究費助成決定。</p> <p>2. 各部会状況報告。決算見込み、来期予算、研究事業活動報告書案提示。</p> <p>3. 高精度板成形シミュレーションの普及化検討研究部会の新設を承認。</p> <p>4. 学会版見直し担当割り当て、テーマ括り見直しを決定。</p> <p>5. 部会活動 HP 紹介内容決定。</p>

(8)支部長会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 1 回	27 年 5 月 17 日	<p>1. 平成 26 年度支部収支報告書および平成 27 年度支部収支予算書</p> <p>2. 今後の開催予定地</p> <p>3. 高橋記念賞</p> <p>4. 中堅企業支援活動</p> <p>5. 年間表彰スケジュール</p> <p>6. 会誌支部特集</p> <p>7. その他</p>	<p>1. 事務局より提示した資料確認。支部決算処理の簡略化検討予定。</p> <p>2. 平成 29 年第 132 回春期大会までの開催日程、予定地を確認。</p> <p>3. 選考委員案の確認依頼。</p> <p>4. 平成 26 年度実績報告と H27 年度活動要請。</p> <p>5. 事務局提示資料を確認。支部企業奨励賞予定確認。</p> <p>6. 東海支部 2016 年 7 月掲載を確認。</p> <p>7. 功労賞推薦、講演大会収益の支部還元に関する支部長意見聴取を計画。入会案内パンフレットアンケート回答依頼。</p>
第 2 回	27 年 11 月 22 日	<p>1. 平成 27 年度支部第 2 四半期決算</p> <p>2. 平成 28 年度支部費配賦額</p> <p>3. ICAA18(2022 年)日本誘致</p> <p>4. 維持会員増強</p> <p>5. 功労賞・高橋記念賞・軽金属希望の星賞に関する支部長意見集約</p>	<p>1. 事務局より提示した決算資料確認。</p> <p>2. 配賦額承認。</p> <p>3. 北陸支部(富山)開催承認。</p> <p>4. 中小規模企業研究開発支援プロジェクト進捗報告。</p> <p>5. 功労賞の支部推薦の位置付け継続協議。軽金属希望の星賞は学生会員対</p>

		6. 人材育成事業 7. 今後の開催予定地 8. 年間表彰スケジュール 9. マイナンバー制度対応	象とし、秋卒業者対応を検討。 6. 支部見学会への高校教諭参加勧誘策を協議。次回エネコン(上越教育大学開催)の審査担当を決定。 7. 平成 28 年第 133 回秋期大会までの開催日程、予定地確認。 8. 事務局提示資料を確認。 9. 支部対応方法を説明。
--	--	--	--

(9) 参与会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
第 19 回	27 年 7 月 8 日	1. 見学会の実施 2. 講演会の実施 3. 委員会の開催	1. 日産自動車追浜工場リーフ組立見学。 2. 燃料電池、EV バッテリーについて講演。
第 20 回	27 年 12 月 9 日	1. 見学会の実施 2. 講演会の実施 3. 委員会の開催	1. 軽金属押出開発工場見学。 2. 国内最大の押出機等の紹介。

(10) 組織委員会

会議名	開催平成年月日	議事事項	会議の結果
なし			

[4] 許可、認可、承認、証明に関する事項

連絡平成年月日	議事事項	履行状況
なし		

[5] 契約に関する事項

契約締結平成年月日	契約内容	契約先・委託者
なし		

[6] 寄付金に関する事項 寄付金支出はなし

[7] 主務官庁からの連絡および報告事項

連絡平成年月日	議事事項	履行状況
27 年 6 月 25 日	平成 26 年度公益目的支出計画実施報告書等の提出	内閣府に関係書類を電子提出
27 年 7 月 1 日	公益目的支出計画の実施が完了したことの確認請求	内閣府に確認請求を電子提出
27 年 11 月 17 日	公益目的支出計画の実施完了確認書受領	平成 27 年 3 月 31 日の実施完了を確認

[8] その他重要事項 特になし

[9] 会員動向

() 内は内数

	名誉会員	永年会員	個人会員				合計
			正会員	学生会員	外国人	合計	
平成 28 年 4 月 1 日	55	86	1,573	259	(7)	1,832	1,973
平成 27 年 4 月 1 日	53	90	1,588	253	(9)	1,841	1,984
差引増減	2	△4	△15	6	(△2)	△9	△11

正会員の内訳

	大学・高専等	公的研究機関	企業等	その他	合計
平成 28 年 4 月 1 日	457	110	969	37	1,573
平成 27 年 4 月 1 日	451	110	983	44	1,588
差引増減	6	0	△14	△7	△15

特別維持会員・維持会員・年間購読の内訳

	特別維持会員	維持会員	口数								年間購読	
			10	8	6	5	4	3	2	1		合計
平成 28 年 4 月 1 日	5	129	2	0	0	0	1	3	16	107	172	57
平成 27 年 4 月 1 日	5	128	2	0	0	0	1	3	15	107	170	69
差引増減	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2	△12

[10] 事業報告の附属明細書 事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、附属明細書は作成していない。